

平成 21 年度 体育センター長期研修 研究報告書

体を動かす楽しさを味わう体づくり運動
—挑戦的な運動課題に取り組むグループ活動を通して—



神奈川県立体育センター

長期研究員

大井町立大井小学校 高橋 壮芳

目次

第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	2
4	研究の仮説	2
5	研究の内容と方法	2
6	研究の構想図	3

第2章 理論の研究

1	体づくり運動	4
2	楽しさ	5
3	中学年の発達	6
4	挑戦的な運動課題	7
5	グループ活動	8
6	授業の振り返り	9

第3章 検証授業

1	研究の仮説	11
2	検証の方法	11
3	学習指導計画	12
4	授業の実際	19
5	検証授業の結果と考察	27
6	指導の工夫とその効果及び課題	45
7	授業全体を振り返って	50

第4章 研究のまとめ

1	研究の成果と課題	53
2	今後の展望	53
3	最後に	56

〈引用・参考文献〉

第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題

体を動かす楽しさを味わう体づくり運動
ー挑戦的な運動課題に取り組むグループ活動を通してー

2 主題設定の理由

子どもの心と体の状態について、文部科学省中央教育審議会の答申では、「子どもの心身の発達については、社会環境や生活様式の変化が、様々な影響を与えている。体力・運動能力調査の結果など、子どもたちの体力水準が全体として低下していることがうかがえるとともに、積極的に運動する子どもとそうでない子どもに分散が拡大しているとの指摘がある」¹⁾と述べられており、体力の低下と積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化の傾向が課題となっている。

本校の子どもたちの様子を見ると、休み時間には外で元気よく遊んでいる子どももいれば教室で絵を書いたり本を読んだりして過ごしている子どももいる。また、子どもたちの話から、放課後においてはテレビゲームをしたりマンガを読んだりしていることが多いようだ。確かに本校でも積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向はあるように思われる。

このような中、新しい学習指導要領では、小学校1年生から体づくり運動を指導することとなった。将来の体力向上につなげていくためには、この時期に様々な体の基本的な動きを培っておくことが重要という指摘からである。私は本校の子どもたちにも、小学校1年生から、体づくり運動によって運動の楽しさを味わわせ、進んで体を動かすことが好きになる子どもに育てていきたいと考える。

また、私自身、これまで高学年を担当することが多く、基本の運動の授業をすることが少なかったため、新しく1年生から指導することとなった体づくり運動をどのように指導していったらよいか不安を感じている。こうした思いは、小学校の教員全体に言えることではないかと推測される。そこで、体づくり運動で、子どもたちが体を動かすことの楽しさを味わうように指導していくためにはどうしたらよいかという研究をしていきたいと考えた。

今回の研究では、子どもたちが楽しく夢中になって取り組むことができるような運動課題を用意していきたいと考え、人数が1人から2人、3人、4人、6人と増えていく挑戦的な運動課題を設定することにした。この挑戦的な運動課題とは、段階的に難しくなっていく、子どもたちが何回も取り組みたくなるようなものととらえている。この運動課題を設定することによって、子どもたちはグループで夢中になって何回も取り組み、1人での動きができるようになり、さらに、みんなでできるようになることで楽しさが得られるのではないかと考える。また、同一メンバーのグループで単元を通して取り組むことで、協力しやすくなり、友だちとかかわり合う楽しさが増すのではないかと考える。

以上のようなことから、人数が増えていくという挑戦的な運動課題にグループで取り組むことを通して、基本的な動きができるようになり、子どもたちが体を動かす楽しさを味わい、進んで体を動かそうという気持ちをもたせたいと思い、本主題を設定する。

3 研究の目的

平成 20 年 3 月に告示された小学校学習指導要領で、3 年生の学習内容として新たに設定された体づくり運動（多様な動きをつくる運動）における挑戦的な運動課題へのグループでの取組など、授業実践をもとに授業づくりに役立つ提案を行う。

4 研究の仮説

主題設定の理由に基づいて、本研究の仮説を次のように設定した。

体づくり運動（多様な動きをつくる運動）において、1 人から 2 人…6 人と人数が増えていく挑戦的な運動課題にグループで取り組むことによって、体の基本的な動きができるようになり、体を動かす楽しさを味わうだろう。

5 研究の内容と方法

(1) 本研究を進めるにあたって、理論的裏付けを文献・資料をもとに行う。

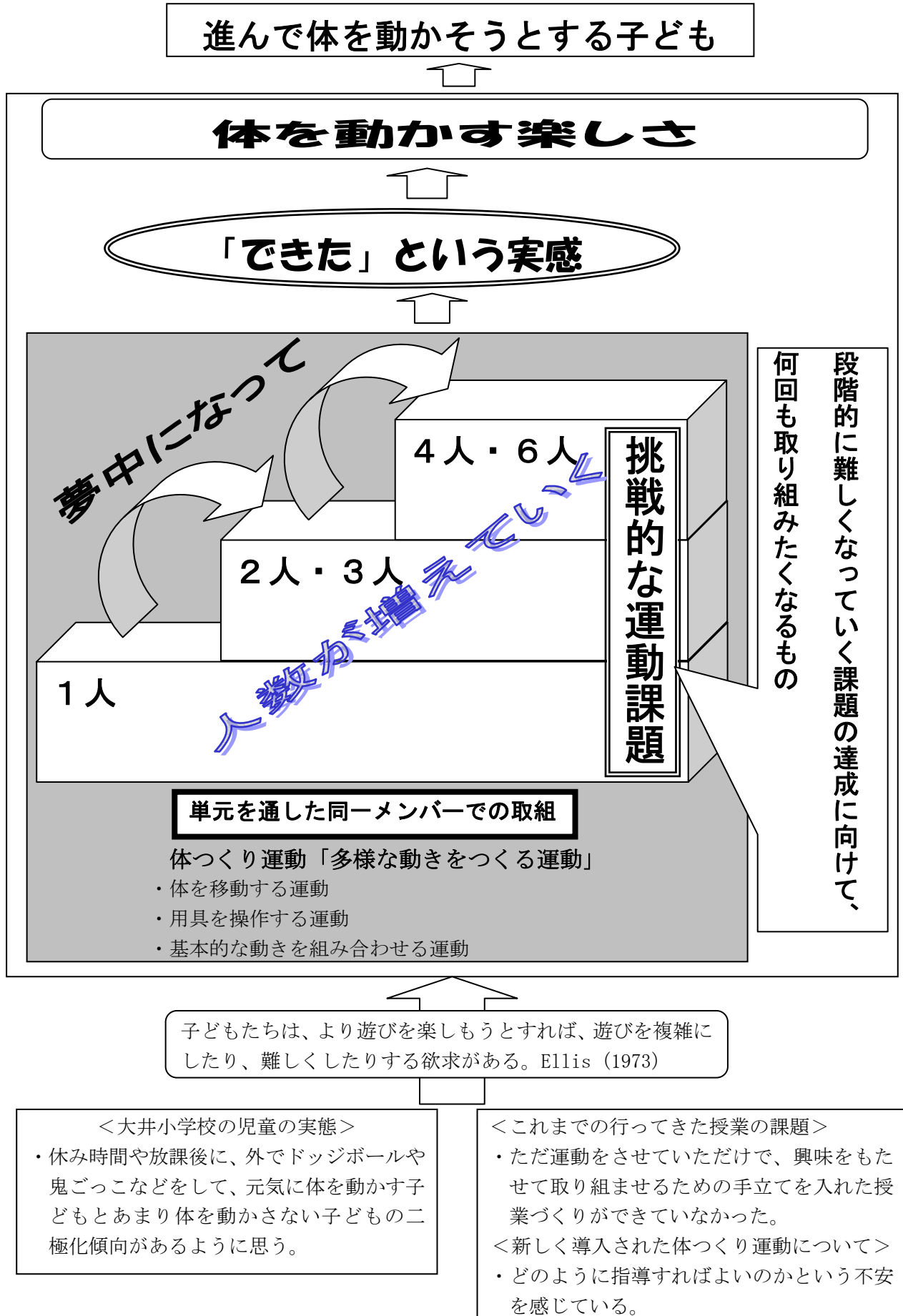
- ア 体づくり運動
- イ 楽しさ
- ウ 動きができるようになるために
- エ 挑戦的な運動課題
- オ グループ活動
- カ 授業の振り返り

(2) 理論研究をもとに学習計画を立て実践を行い、仮説の有効性を検証する。

- ア 単元学習指導計画立案
- イ 実態調査
- ウ 授業実践
- エ 結果の分析

(3) 以上の理論研究と実践研究をもとに研究のまとめを行う。

6 研究の構想図



第2章 理論の研究

1 体づくり運動

(1) 体づくり運動とは

体づくり運動は、心と体の関係に気付くこと、体の調子を整えること、仲間と交流することなどの体ほぐしをしたり、体力を高めたりするために行われる運動である。²⁾

体 つ く り 運 動	「体ほぐしの運動」	心と体の関係に気付く、体の調子を整える、仲間と交流する
	「多様な動きをつくる運動遊び」(低学年) 「多様な動きをつくる運動」(中学年) 「体力を高めるための運動」(高学年)	体力を高めるための運動 (低・中学年においては、この時期にさまざまな基本的な動きを培うことが重要)

(2) 体づくり運動の内容²⁾

1, 2年	<p>(1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなでかかわり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。</p> <p>イ <u>多様な動きをつくる運動遊び</u>では、<u>体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作など</u>をすること。</p> <p>(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、<u>場の安全</u>に気を付けたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 体づくりのための<u>簡単な運動</u>の行い方を工夫できるようにする。</p>
3, 4年	<p>(1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなでかかわり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。</p> <p>イ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作などとともに、それらを組み合わせること。</p> <p>(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。</p>
5, 6年	<p>(1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、<u>体力を高めることができる</u>ようにする。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、心と体の<u>関係</u>に気付いたり、体の調子を整えたり、<u>仲間と交流</u>したりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。</p> <p>イ <u>体力を高める運動</u>では、<u>ねらいに応じて、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを維持する能力を高めるための運動</u>をすること。</p> <p>(2) 運動に進んで取り組み、<u>助け合っ</u>て運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。</p> <p>(3) <u>自己の体の状態や体力</u>に応じて、運動の行い方を工夫できるようにする。</p>

※3、4年生との内容の違いについて、下線を筆者加筆。

(3) 体ほぐしの運動について²⁾

体ほぐしの運動は、手軽な運動や律動的な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、仲間と豊かに交流したりすることができることをねらいとして行われる運動である。

[行い方の例]

- のびのびした動作で用具などを用いた運動を行うこと
- リズムに乗って、心が弾むような動作で運動を行うこと
- リラックスしながらペアでのストレッチングを行うこと
- 動作や人数などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行うこと
- 伝承遊びや集団による運動を行うこと

(4) 多様な動きをつくる運動について²⁾

多様な動きをつくる運動は、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動を通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることをねらいとして行う運動である

多様な動きをつくる運動は、次のような運動で構成される。

- (ア) 体のバランスをとる運動
- (イ) 体を移動する運動
- (ウ) 用具を操作する運動
- (エ) 力試しの運動
- (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動

2 楽しさ

(1) 運動（プレイ）の発達と楽しさ

運動（プレイ）の発達と楽しさについて、高橋は、「運動（プレイ）自体が発達し、また穏やかであっても発達がなければ、運動の楽しさが持続しない点に注意を向ける必要がある。そして、子どもたちはプレイの発達を求めるものである。そこに発達がなければプレイの欲求は縮小していき、いつしか消え去ってしまう。体育の授業は、そのような発達に誘い、導いていくところに重要な役割がある。」³⁾と述べている。

また、三木は、「カイヨワ（1958）によれば、遊びは、自由気ままで即興的、無秩序で本能的な遊び（パイディア）から、ルールに従い、故意に作られた困難に立ち向かう緊張を求める遊び（ルドゥス）へという方向で発展していく。例えば、無秩序なチャンバラ遊びで衝動のままに活力を発散し、気晴らしの興奮を楽しむ段階から、その活力を無秩序に放出するのではなく、その活力を努力や工夫や鍛練に向け、技術を身に付け、ルールに従って試合で他者に対峙するようになった場合、ルールによって制限を加えられ、また自ら課した目標に向かって努力することを楽しむ、より高次の遊びに発展したといえることができる。アメリカのプレイ論者 Ellis（1973）は、遊んでいる子供たちは、より楽しもうとすれば、放っておいても、自分たちで少しずつ遊びを複雑にしていったり難しくしていったりすると述べている。このような子どもたちの運動や遊びに対する欲求の傾向を体育の授業にどのように取り込むかが課題となる」⁴⁾と述べている。

(2) 運動の楽しさ

神奈川県立体育センターが平成 17 年に行った「学校体育に関する児童生徒の意識調査」の研究報告書によると、子どもたちが体育の授業を楽しんでいるのは次のような時（表 2-1）であると書かれている。

表 2-1 楽しいと感じた時

あなたは体育の授業が「楽しい」と感じるのはどんな時ですか？				
	4年男	%	4年女	%
1 思い切り身体を動かすことができた時	311	17.2%	236	13.0%
2 気持ちがすっきりした時	200	11.1%	175	9.7%
3 友だちとなかよく一緒に学習できた時	234	13.0%	292	16.1%
4 みんなと教え合い励まし合い協力してできた時	95	5.3%	149	8.2%
5 上手にできたり頑張ったりした時、仲間や先生がほめてくれた時	155	8.6%	238	13.1%
6 友だちと競争、勝敗を争うゲームができた時	235	13.0%	112	6.2%
7 記録が伸びたり、できなかったことができたりした時	246	13.6%	320	17.7%
8 自分たちで練習を工夫したり、作戦を立てたりできた時	50	2.8%	29	1.6%
9 運動の仕方など分からないことが分かるようになる時	37	2.1%	62	3.4%
10 新しい技に挑戦したりいろいろなスポーツができたりした時	230	12.8%	195	10.8%
11 その他	10	0.6%	4	0.2%
合計	1,803	100.0%	1,812	100.0%

この結果からみると、体育の学習で多くの児童が「楽しい」と感じるのは、4年生男子で、「思い切り身体を動かすことができたとき」、4年生女子で「記録が伸びたりできなかったことができるようになったとき」であった。次に4年生男子は、「記録が伸びたりできなかったことができるようになったとき」であり、女子は、「友だちと仲よく一緒に学習できたとき」「うまくできたり、がんばったりしたときに仲間や先生がほめてくれたとき」だった。このことから男女ともに、仲間と一緒に学習し、達成感を感じる事が楽しいと感じていることがわかる。⁵⁾

これらのことから、今回の多様な動きをつくる運動の中に、段階的に難しくなっていく要素を入れることで楽しみながら取り組ませる必要がある。また、できなかったことができるようになる、また、できるようになった運動で思い切り体を動かす達成感を子どもたちに体験させることで体を動かす楽しさを味わわせたい。

3 中学年の発達

(1) 中学年の体力・運動能力の発達

矢野は「中学年の時期は、心臓や肺臓の機能は未熟なので筋力や持久力の発達はまだ促進されていない。しかし、背筋力や握力などは身長が発育とともに発達し、個人差や性差はあるが低学年と同じような年間発育量を保ち、安定した発達をする時期である。(中略)これらの体力と比べ、神経系の発達は目立ち、手足、目、耳などの協応動作が発達してくるので、手足の運動が巧みになり、各種の運動技能が急に上達してくる。また、リズム感が発達してくるので全身の身のこなしがリズムカルにできるようになる。」と述べている。⁶⁾

(2) 中学年の発達の特性

中学年になると感覚的なものとのらえ方からある程度論理的なとらえ方ができるようになり、集中時間も持続し、注意深くなる。社会性の発達の面では、3年のはじめはまだ自己中心的・主観的な傾向にあるが、しだいに組織的な行動を好むようになる。とくに、4、5年生の頃を「ギャング・エイジ」と呼ぶように、大きな集団で遊び、集団の凝集性も高まり、リーダーシップやフォローシップが発達する。仲間内でのきまりを守るようになる。

この時期の運動に対する欲求は、からだの発達とかかわって増大し、とくに競争に対する欲求が強くなり、困難な運動に挑戦したり、自己の能力を仲間に示したりすることにも興味をもつ。さらに、スポーツ的な運動に関心を向けるようになり、簡単なルールのもとでゲームを楽しむことができるようになる。したがって、この時期の学習では、グループを単位とした協力的・競争的運動を中心にしながら、その技能を高めることが大切であるといわれている。⁷⁾

これらのことから、今回の授業では、リズムに合わせて跳ねたり、用具を巧みに操作したりする運動などに取り組みさせる。また、グループを単位として協力しながら取り組ませていく必要がある。

4 挑戦的な運動課題

(1) 課題設定

先にも述べたように、遊んでいる子どもたちは、より楽しもうとすれば、放っておいても、自分たちで少しずつ遊びを複雑にしていったり、難しくしていったりする。このような子どもたちの運動や遊びに対する欲求の傾向を体育の授業に取り入れることが大切である。⁴⁾ 今回の多様な動きをつくる運動（遊び）においても、このような楽しく運動に取り組ませながら動きができるようにしていきたい。多様な動きをつくる運動（遊び）において高橋は、「プレイ論者、マイクエリスは遊びの原理として『絶えず複雑になる、絶えず難しくなるという挑戦課題』をあげていますが、そのような原理に基づいて『多様な動きをつくる運動』についても挑戦的な運動課題を提示する必要があると思います。(中略) 1つの運動に関わって複雑さ・難しさを求めていくような魅力的な課題をどのように設計することができるのかが問われていると思います。1時間嬉々として学習できるようなユニットづくりができないかなという思いがあるんです。」⁸⁾と述べている。

(2) 内発的動機付け

岡澤は体育科教育の中で、「運動に参加するためには、動機付け（運動をしようとする心理的エネルギー）が必要である。楽しいから参加したい、上手になるため練習したいというように運動することに内在する動機によって動機付けられている場合は、一般的に内発的動機付けと呼ばれている。反対に、よい成績を収めるために、卒業するために必要だから、叱られるから運動するといったような運動と関係ないことによって動機付けられている場合は、外発的動機付けと呼んでいる。運動が外発的に動機付けられている場合には、その理由がなくなれば運動に参加しなくなることは容易に想像できる。したがって、生涯体育・スポーツの実践者の育成を目指した体育授業では、すべての児童・生徒に運動を内発的に動機付けることが必要になる。デシはこの内発的動機付けの考え方の中でも、『有能さと自己決定』を重視している。『有能さと自己決定』を感じさせるための行動は、最適のチャレンジを追求する行動、そしてチャレンジを征服する行動である。したがって、体育授業では、最適のチャレンジを追求し、チャレンジを次々と征服するような内発的に動機付けられた子ども、すなわち“有能さと自己決定の感情を感じることができるような子ども”を育成する必要があると考えられる。」⁹⁾と述べている。

(3) 「統制感」と「受容感」

岡澤ら（1996）は「運動有能感」という運動に対する自信を総合的にとらえた概念を示している。運動に対する自信といえば、「自分はできる」というような運動技能に関する自信がまず考えられる。これは、「身体的有能さの認知」とよばれている。「自分はできる」ということを感じることであれば自信は高まる。しかし、これでは「自分はできる」と感じられ

ない子、とりわけ運動が苦手な子はいつまでたっても自信を高めることはできないのか、ということになる。

このように「できる・できない」で自信をとらえるだけでは、すべての子どもの自信を高めることはできない。だが、実は運動有能感には、「統制感」と「受容感」がある。「統制感」とは「努力すればできるようになる」という自信である。今は、できなくても「できるようになりたい」という課題があり、「努力すればできるようになる」という自信を高めることができれば、意欲的にチャレンジすることができるのである。次に「受容感」とは、「周りから受け入れられている」という自信を指す。自分がチャレンジしていることを肯定的に受け入れてくれる教師や仲間の存在は、「できるようになりたい」という思いを高める。

統制感や受容感を高めることによって、課題にチャレンジするエネルギーを高め、その結果「身体的有能さの認知」を高めるといのが運動有能感の考え方である。¹⁰⁾

(4) 「できる」ためには「わかる」ことが必要

わからないと「できる」ようにはならない。しかし、わかったからといってすぐに「できる」ようになるわけではない。わかったことが「できる」ためには、それを実際に試すことが必要になる。また、実際に試すことを通して、わかった内容の理解も一層深まっていく。したがって、実際に授業を行う際には、「わかる」ことを「できる」ことに結び付けていく配慮が大切になる。「できる」ためには「わかる」ことが必要である。¹¹⁾

これらのことから、今回の研究では、絶えず複雑になる難しくなるという挑戦的な運動課題を「段階的に難しくなっていく課題の達成に向けて、何回も取り組みたくなるもの」と考え、授業の中に取り入れていくことにする。そして、苦手な子どももできるやさしい動きから運動を始めて、努力すれば何とかかなりそうだと思わせる運動課題にする。また、上手にできる見本を示すことで、イメージをもたせ、できそうな気持ちにさせ、動いていく中で、実際に「できる」ようにさせていく必要がある。

そして、友だちの励ましなど肯定的に受け入れる授業の雰囲気をつくることで意欲的に取り組めるようにしていきたい。

5 グループ活動

(1) グループ学習

グループ学習は学習の主体を学習者におき、メンバー相互の教え合い、助け合いによって、自主的・協力的に学習を進めることをねらい、グループ学習の小集団は、グループ自体が一つのまとまりとして、自ら学習する機能をもっている。¹²⁾

グループ学習は、『みんながうまくなること』を実現するための方法なのであり、「できる」「わかる」「生きる」を統一的に教えようとする体育の授業づくりに最もふさわしい方法である。¹³⁾

(2) わかり合い、学び合い

子どもは集団のなかで学ぶとき、自分と友だちはどこが違うのか、自分のどこができていて、どこができていないのかが最もよく「わかる」と言われている。技術学習の上で自分とは異なる個性とかかわることは、習熟と認識を深めていくうえで重要である。自分のできぐあいと友だちのできぐあいの交流のなかで、技術認識を媒介にして友だちと結びつくのである。体育での学習集団の成立の根拠はここにある。

子どもは、技術認識を媒介として友だちと結びついていくが、この関係の深化のなかで人間的感情をも交流する。優越感や劣等感ではなく、ともにうまくなっていく仲間として、ともに学び合う仲間として友だちを認識する。はじめは助け合う仲間や励まし合いの仲間であ

ったものが、技術認識の深化につれて、わかり合う仲間、学び合う仲間へと発展していく。技術認識と集団意識がともに高まっていくのである。

「わかる」こと＝技術認識を土台にしながら、子どもは自らの集団を変革していく。集団として、学習内容に立ち向かっていき、それをわがものにしていく過程で、集団としての方法をも身に付けていく。

技術と集団についての科学的認識に支えられた方法は、子どもにとっては「自らすすんで」学習内容に立ち向かうときの強力な味方となる。

励まし合いや助け合いは目的ではない。何のために励まし合い、助け合うのかということが重要なのであって懸命に励まし合い、助け合っている「姿」をつくりだすことを授業の目的にするわけにはいかないのである。

励まし合いや助け合いは、わかり合うために、学び合うために必要なことであり、そこでの指導もまた、わかり合い、学び合いを組織することが中心となる。¹³⁾

これらのことから、グループ活動を取り入れて体づくり運動を進めていきたい。さらに子どもたちの学び合いが有効に行われるために、単元を通して同一メンバーで取り組んでいきたい。

6 授業の振り返り

各時間の授業実践を形成的に評価し、当初の計画を修正したり、個々の児童生徒の学びの実態を把握したりすることは、授業成果を高めるうえできわめて重要である。また、形成的評価の累積の上に、総括的評価があるとよい。¹⁴⁾

そして、体育の授業評価として、信頼できる形成的授業評価票が表2-2である。

表2-2 形成的授業評価票

体育のじゅぎょうについて		
3年 組 ()		
◎きょうの体育のじゅぎょうはどうでしたか。あてはまるものに○をつけてください。		
1. ふかく心にのこることやかんどうすることがありましたか。	はい	どちらでもない いいえ
2. 今までできなかったことができるようになりましたか。	はい	どちらでもない いいえ
3. 「あっ、わかった」「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。	はい	どちらでもない いいえ
4. せいいっぱい、全力をつくしてうんどうすることができましたか。	はい	どちらでもない いいえ
5. 楽しかったですか。	はい	どちらでもない いいえ
6. 自分から進んでがくしゅうすることができましたか。	はい	どちらでもない いいえ
7. 自分のめあてにむかって何回もれんしゅうできましたか。	はい	どちらでもない いいえ
8. 友だちと協力して、なかよくがくしゅうできましたか。	はい	どちらでもない いいえ
9. 友だちとお互いにおしえたり、たすけたりしましたか。	はい	どちらでもない いいえ

調査項目は、「成果」「意欲・関心」「学び方」「協力」の4次元9項目から成り立っている。この中の「成果」次元が意味することは、できたり、わかったりした時に、子どもは大きな感動を味わうことができるというものである。端的に、体育の陶冶目標に対する実現度が評価できる。また、この次元の評価を大きく左右するのは、技能的な達成や習熟である。そのような意味で技能的成果をみる項目であるといってもよい。

「意欲・関心」次元は、運動欲求の充足度を評価するものである。子どもにとって体育授業が楽しかったかどうかのバロメーターとなる。子どもの体育授業に対する総合的評価に対して最も強い規定力をもつのはこの次元で、体育授業の成否を決定付ける要因であるといっても過言ではない。

「学び方」次元は、学習の自発性や学習の合理性を問うものである。はじめに行った因子分析の結果では、これら2項目の他に「考える」「工夫する」といった項目や学習規律に関する項目が含まれていたのであり、まさに「学び方」を評価する次元である。

最後の「協力」次元は、友だちとの人間関係（態度）を評価するものである。学習指導要領では、「関心・意欲・態度」として一括されているが、体育授業では人間関係の様態が学習に重大な影響を及ぼすことから、この次元を独立させて評価することが大切である。

各項目、各次元、全項目について、「はい」に3点、「どちらでもない」に2点、「いいえ」に1点を与えて平均点を算出する。そして、ここで得た平均点を表2-3の評価規準に照らして5段階で評価する。例えば、全項目のクラスの平均点が2.5であれば5段階評価の3になり、2.2であれば2ということになる。2.77以上の評価が得られれば大変評価が高かった授業であり、逆に2.33以下であればかなり低い評価であり反省して授業改善に取り組む必要がある。¹⁴⁾

このことから、学習カードに形成的授業評価票を取り入れることで、子どもたちの様子を知る資料や、授業を振り返り、次時の改善につなげていく資料としたい。

表2-3 形成的授業評価の診断基準

次元	項目	評定				
		5	4	3	2	1
成果	1. 感動の体験	3.00~2.62	2.61~2.29	2.28~1.90	1.89~1.57	1.56~1.00
	2. 技能の伸び	3.00~2.82	2.81~2.54	2.53~2.21	2.20~1.93	1.92~1.00
	3. 新しい発見	3.00~2.85	2.84~2.59	2.58~2.28	2.27~2.02	2.01~1.00
	次元の評価	3.00~2.70	2.69~2.45	2.44~2.15	2.14~1.91	1.90~1.00
意欲・関心	4. 精一杯の運動	3.00	2.99~2.80	2.79~2.56	2.55~2.37	2.36~1.00
	5. 楽しさの体験	3.00	2.99~2.85	2.84~2.60	2.59~2.39	2.38~1.00
	次元の評価	3.00	2.99~2.81	2.80~2.59	2.58~2.41	2.40~1.00
学び方	6. 自主的学習	3.00~2.77	2.76~2.52	2.51~2.23	2.22~1.99	1.98~1.00
	7. めあてをもった学習	3.00~2.94	2.93~2.65	2.64~2.31	2.30~2.03	2.02~1.00
	次元の評価	3.00~2.81	2.80~2.57	2.56~2.29	2.28~2.05	2.04~1.00
協力	8. なかよく運動	3.00~2.92	2.91~2.71	2.70~2.46	2.45~2.25	2.24~1.00
	9. 協力学習	3.00~2.83	2.82~2.55	2.54~2.24	2.23~1.97	1.96~1.00
	次元の評価	3.00~2.85	2.84~2.62	2.61~2.36	2.35~2.13	2.12~1.00
総合評価（総平均）		3.00~2.77	2.76~2.58	2.57~2.34	2.33~2.15	2.14~1.00

第3章 検証授業

1 研究の仮説

体づくり運動（多様な動きをつくる運動）において、1人から2人…6人と人数が増えていく挑戦的な運動課題にグループで取り組むことによって、体の基本的な動きができるようになり、体を動かす楽しさを味わうだろう。

2 検証の方法

- (1) 期間 平成21年9月18日（金）～11月6日（金） 8時間扱い
 (2) 場所 大井町立大井小学校 体育館
 (3) 対象 第3学年1組（36名）
 (4) 単元名 体づくり運動
 (5) 方法

ア 単元学習指導計画立案

イ 実態調査と分析

- | | |
|--------------------|------------|
| (ア) 予備アンケートによる実態調査 | 7月16日（木）実施 |
| (イ) 事前アンケート 調査・分析 | 9月17日（木）実施 |
| (ウ) 単元終了時アンケート | 11月6日（金）実施 |
| (エ) 事後アンケート | 11月6日（金）実施 |

ウ 授業実践

エ 学習カードの分析

オ VTRの分析

カ 結果の分析

(6) 分析の視点と方法

表3-1 分析の視点と方法

分析の視点	具体的な分析の方法
(1) 人数が増えていく活動が挑戦的な運動課題になったか	ア 人数が増えていく活動が挑戦的な運動課題になったか (ア) VTRによる「人数が増えていく活動が、どの段階まで取り組めたか」の分析 (イ) 学習カードによる「自分のめあてに向かって何回も練習できましたか」の回答の分析 (ウ) 学習カードによる「人数が増えていく活動はどうでしたか」の回答の分析
(2) 人数が増えていく活動にグループで取り組むことができたか	ア 人数が増えていく活動のめあてに向かってグループで取り組むことができたか (ア) 形成的授業評価による「自主的学習」「めあてをもった学習」、「学び方」次元の回答の分析 (イ) VTRによる各班の活動の様子の分析 イ 人数が増えていく活動にグループで協力して取り組むことができたか (ア) 形成的授業評価による「なかよく運動」「協力学習」、「協力」次元の回答の分析 (イ) 学習カードによる「人数が増えていく運動を行った時どのような声かけをしましたか」の回答の分析 (ウ) 事前事後アンケートによる「友だちと教え合って運動できましたか」の回答の分析
(3) 人数が増えていく活動で、ねらった動きができたか	ア 人数が増えていく活動で、ねらった動きができたか (ア) VTRによる「人数が増えていく活動がどの程度までできたか」の分析 (イ) 形成的授業評価による「技能の伸び」、「成果」次元の回答の分析
(4) 体を動かす楽しさを味わったか	ア 体を動かす楽しさを味わうことができたか (ア) 形成的授業評価による「精一杯の運動」「楽しさの体験」、「関心・意欲」次元の回答の分析 (イ) 事後アンケートによる「体づくり運動をした感想」の回答の分析 (ウ) 事前事後アンケートによる「体育で体を動かすことは楽しいですか」の回答の分析

3 学習指導計画

(1) 単元の目標

ア いろいろな運動に楽しく取り組もうとする。また、きまりを守って友だちと仲よく運動しようとしたり、運動する場や用具の安全に気を付けながら運動したりしようとする。(関心・意欲・態度)

イ 運動が楽しくできるように行い方を考えたり、工夫したりできる。(思考・判断)

ウ 体を移動する動き、用具を操作する動き、それらを組み合わせた動きができる。(技能)

(2) 評価規準

ア 内容のまとめりごとの評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
いろいろな運動に進んで取り組もうとする。また、順番やきまりを守って仲よく運動しようとしたり、運動をする場所や用具の安全に気を付けながら運動したりしようとする。	体づくりのための運動の行い方を工夫している。	いろいろな運動を楽しく行うための体の基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動きができる。

イ 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
いろいろな運動に楽しく取り組もうとする。また、きまりを守って友だちと仲よく運動しようとしたり、運動する場や用具の安全に気を付けながら運動したりしようとする。	運動が楽しくできるように行い方を考えたり、工夫したりしている。	体を移動する動き、用具を操作する動き、それらを組み合わせた動きができる。

ウ 学習場面における具体の評価規準と具体の学びの姿、及びCの児童への手立て

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
十分満足できる (A)	<ul style="list-style-type: none"> ① 率先していろいろな運動に楽しく取り組もうとする。 ② 常にきまりを守って友だちと仲よく運動しようとする。 ③ 常に運動する場や用具の安全に気を付けながら運動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 常に友だちのよい動きを見付け、自分の動きに取り入れようとしている。 ② 楽しく運動できる行い方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 体を移動する動きがスムーズにできる。 ② 用具を操作する動きがスムーズにできる。 ③ 基本的な動きを組み合わせた動きがスムーズにできる。
おおむね満足できる (B)	<ul style="list-style-type: none"> ① いろいろな運動に楽しく取り組もうとする。 ② きまりを守って友だちと仲よく運動しようとする。 ③ 運動する場や用具の安全に気を付けながら運動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 友だちのよい動きを見付け、自分の動きに取り入れようとしている。 ② 楽しく運動できる行い方を選んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 体を移動する動きができる。 ② 用具を操作する動きができる。 ③ 基本的な動きを組み合わせた動きができる。
努力を要する (C)	<ul style="list-style-type: none"> ① いろいろな運動に楽しく取り組もうとしないときがある。 ② きまりを守って友だちと仲よく運動しようとしないうときがある。 ③ 運動する場や用具の安全に気を付けながら運動しようとしないうときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 友だちのよい動きを見付け、自分の動きに取り入れることができない。 ② 楽しく運動できる行い方を選びながら運動することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 体を移動する動きができない。 ② 用具を操作する動きができない。 ③ 基本的な動きを組み合わせた動きができない。
努力を要する(C)と判断される児童への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ① なぜ楽しく取り組めないのかを明らかにし、楽しむ方法を一緒に探る。 ② きまりを守ることの大切さや周りの友だちの気持ちについて一緒に考える。 ③ 運動する場や用具の安全の確認の仕方、大切さを再度伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 一緒になって友だちのよい動きを探し、確認する。 ② 一緒になって考えながら、選ぶことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①～③ 友だちの動きを参考にし、動きのポイントを確認し、一緒に行う。

(3) 指導と評価の計画

時間	学習のねらいと活動	学習活動における具体の評価規準			評価方法
		関心意欲態度	思考判断	運動の技能	
1時間目	<p>ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。</p> <p>1 オリエンテーション ・単元のめあての確認 ・学習時の約束の確認</p> <p>2 本時のめあての確認</p> <p>3 準備運動</p> <p>4 体ほぐしの運動</p> <p>5 学習カードの記入と振り返り</p> <p>6 次時の学習の確認、挨拶</p>	①			<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>①いろいろな運動に楽しく取り組もうとする。 (行動観察) (学習カード)</p>
2時間目	<p>ねらい1 ねらい2 動きを確認しながら運動し、体を移動する動き、用具を操作する動きができる。</p> <p>1 集合、挨拶、健康観察(エネルギーチェック)、準備運動</p> <p>2 体ほぐしの運動</p> <p>3 本時のめあての確認</p> <p>4 歩く動き</p> <p>5 用具を運ぶ動き</p> <p>6 学習カードの記入と振り返り</p> <p>7 次時の学習の確認、挨拶</p>	③		① ②	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>③運動する場や用具の安全に気を付けながら運動しようとする。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>①体を移動する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>②用具を操作する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p>
3時間目	<p>ねらい1 ねらい2</p> <p>1 集合、挨拶、健康観察(エネルギーチェック)、準備運動</p> <p>2 体ほぐしの運動</p> <p>3 本時のめあての確認</p> <p>4 はねる動き</p> <p>5 用具を跳ぶ動き</p> <p>6 学習カードの記入と振り返り</p> <p>7 次時の学習の確認、挨拶</p>		①	① ②	<p>【思考・判断】</p> <p>①友だちのよい動きを見付け、自分の動きに取り入れようとしている。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>①体を移動する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>②用具を操作する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p>
4時間目	<p>ねらい1 ねらい2</p> <p>1 集合、挨拶、健康観察(エネルギーチェック)、準備運動</p> <p>2 体ほぐしの運動</p> <p>3 本時のめあての確認</p> <p>4 はねる動き</p> <p>5 用具を投げる、捕る動き</p> <p>6 学習カードの記入と振り返り</p> <p>7 次時の学習の確認、挨拶</p>	②		① ②	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>②きまりを守って友だちと仲よく運動しようとする。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>①体を移動する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>②用具を操作する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p>

5 時間目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ねらい1 ねらい3 基本的な動きを組み合わせた動きができる。 </div> 1 集合、挨拶、健康観察(エネルギーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 3 本時のめあての確認 4 基本的な動きを組み合わせる運動① 5 基本的な動きを組み合わせる運動② 6 学習カードの記入と振り返り 7 次時の学習の確認、挨拶	③	③	【関心・意欲・態度】 ③運動する場や用具の安全に気を付けながら運動しようとする。 (行動観察) (学習カード) 【運動の技能】 ③基本的な動きを組み合わせる動きができる。 (行動観察) (学習カード)
6 時間目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ねらい1 ねらい3 </div> 1 集合、挨拶、健康観察(エネルギーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 3 本時のめあての確認 4 基本的な動きを組み合わせる運動① 5 基本的な動きを組み合わせる運動② 6 学習カードの記入と振り返り 7 次時の学習の確認、挨拶	①	③	【関心・意欲・態度】 ①いろいろな運動に楽しく取り組みようとする。 (行動観察) (学習カード) 【運動の技能】 ③基本的な動きを組み合わせる動きができる。 (行動観察) (学習カード)
7 時間目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ねらい1 ねらい4 動きを選び、工夫しながら運動する。 </div> 1 集合、挨拶、健康観察(エネルギーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 3 本時のめあての確認 4 これまで学習した中から、動きを選び、工夫しながら運動 5 学習カードの記入と振り返り 6 次時の学習の確認、挨拶	②	②	【関心・意欲・態度】 ②きまりを守って友だちと仲よく運動しようとする。 (行動観察) (学習カード) 【思考・判断】 ②楽しく運動できる行い方を選んでいる。 (行動観察) (学習カード)
8 時間目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ねらい1 ねらい4 </div> 1 集合、挨拶、健康観察(エネルギーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 3 本時のめあての確認 4 これまで学習した中から、動きを選び、工夫しながら運動 5 学習カードの記入と振り返り 6 学習のまとめ、挨拶	①	②	【関心・意欲・態度】 ①いろいろな運動に楽しく取り組みようとする。 (行動観察) (学習カード) 【思考・判断】 ②楽しく運動できる行い方を選んでいる。 (行動観察) (学習カード)

(4) 単元計画

ア 第3学年 (前半) (検証授業)

時	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	<p>体ほぐしの運動</p> <p>多様な動きをつくる運動</p>							
	ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう	ねらい1 ねらい2 動きを確認しながら運動し、体を移動する動き、用具を操作する動きができる	体ほぐしの運動		ねらい1 ねらい3 基本的な動きを組み合わせた動きができる	ねらい1 ねらい4 動きを選び、工夫しながら運動する		
5	1 オリエンテーション	1 集合・挨拶・健康観察 (エナジーチェック) ・準備運動						
20	5	2 体ほぐしの運動						
	2	3 本時のめあての確認						
30	3	体ほぐしの運動		体を移動する運動		基本的な動きを組み合わせる運動		4 これまで行った「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」の中から選んで行う。
	4	4 歩く動き (アヒル歩き、ムカデ歩き)	4 はねる動き (8、4、2、1のリズム)	4 はねる動き (ケンパのリズム)	4 大なわケンパ	4 大なわボール運び	4 これまで行った「体を移動する運動」の中から選んで行う。	4 これまで行った「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」の中から選んで行う。
40	4	6 学習カードの記入・学習の振り返り						
	5	7 片付け・挨拶						

(5) 指導の工夫

ア 多様な動きをつくる運動（遊び）について

(ア) 挑戦的な運動課題

子どもたちが楽しく運動に取り組める手立てとして、段階的に難しくなっていく課題の達成に向けて、何回も取り組みたくなるような挑戦的な運動課題を設定する。そして、挑戦的な運動課題として、人数が増えていく活動を設定する。1人でできたことを、2人で…6人で一緒に行うことで、友だちとのタイミングを合わせることや友だちとの距離を考えることなど意識することが多くなり、難しさがでてくると考え、その難しさに段階的に取り組んでいくことが、挑戦的な運動課題になるのではないかと考える。

イ グループについて

(ア) 単元を通して同一メンバーのグループ

今回の体づくり運動の中では、グループで協力しながら、めあてに向かって挑戦してほしいと考えた。グループを固定することで、子どもたちはお互いの動きの様子がよく分かり、学習に取り組みやすくなる。また、時間が進むうちにより仲よくなり、7、8時間目の「動きを選び、工夫しながら運動する時間」には工夫についての意見が出しやすいのではないかと考える。

グループは、学習を進めていく中で重要な位置を占める。充実した学習になるように、メンバーは、人間関係を考慮して、グループ編成を行うこととする。また1グループは6人として、2人組、3人組をつくりやすくする。

ウ 単元について

(ア) 15分の活動

今回の授業では、健康観察や準備運動、体ほぐしの運動、学習カードの記入、振り返りの時間には、約15分の時間が必要であると予想される。また、授業全体は45分なので、実際に運動する時間は、約30分である。「子どもたちの興味・関心の持続を考慮すると、複数の運動を取り上げることが有効であると考えられます。」と文部科学省発行「多様な動きをつくる運動（遊び）」のパンフレットに示されていることや1つの運動を子どもたちが楽しむまでの時間を考慮すると、2つの運動を行い、1つの運動にかけられる時間は約15分程度ではないかと思われる。1つの運動を15分で行うことで、子どもたちは1時間の中に2つの運動を行うことができ、単元を通してたくさんの動きを学習することができると考えた。

(イ) 単元の内容

今回の体づくり運動では、構成している5つの運動の中から、「体を移動する運動」「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」を学習内容とした。これは、2年生の時に行った新体力テストで跳躍力が全国平均より劣っている結果が出たことから、跳ぶ、はねる動きがある「体を移動する運動」に取り組ませたいと考えたからである。また、私がこれまで高学年で行った授業のボール操作の様子などから不器用さを感じていたので、「用具の操作する運動」を行った方がよいだろうと考え、この2種類を学習内容としたい。

(ウ) 「動きを選び、工夫しながら運動する時間」

「体を移動する運動」「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」を学習してから、単元の最後にこれまでの学習を生かし、工夫して運動に取り組ませようと考え「動きを選び、工夫しながら運動する時間」を7、8時間目に配置した。各時間

のまとめでは、グループで工夫して取り組んだ成果を発表し合うこととする。この時間は、30分で構成する。ここでは、相談しながら運動に取り組んでほしいと考える。

また、人数が増えていく活動の中で、回数がたくさんできるように、少しでも速くできるようになどと考えながら取り組むことができるようにする。跳ぶ方向や体のどこの部分を使うのかなど、選択できるような工夫を意図的に教師が用意し、運動に取り組んでいくようにする。

エ 授業マネジメント


子どもたちが15分という時間の中で人数が増えていく活動に取り組むためには、集合や健康観察などにかかる時間をできるだけ少なくするための「学習の約束」が必要であると考える。約束として、合図を決めたり、集合場所を決めたり、集合時に欠席者の報告をしたり、などの工夫をしていきたい。また、単元を通して意識するために約束の中に「合図」という言葉を入れ、常にホワイトボードに掲示する。

また、運動する時間の確保として、運動の説明の時に絵や図などを使って説明したり、グループの人数を6人にすることで2人組の運動や3人組の運動がスムーズにできるようにしたりする。

効果的に授業が行われるためには、雰囲気は温かく、肯定的に行われる必要があり、「話している友だちを見ながら話を聞くことが大切である」と考える。そのためには体を向けて聞くことが大切である。「仲間の失敗は笑わない。」「ほめる言葉かけ、励ます言葉かけなど肯定的な言葉を大切にする。」という3点を単元を通しての約束にし、「思いやり」という言葉のカードをつくり、常にホワイトボードに掲示し意識をもって学習できるようにする。



また、「安全」についても同じようにカードをつくり掲示し、集合する時、運動する時に「けがをしないように」、「けがをさせないように」取り組むことも体育の大切な学習だと意識させる。

4 授業の実際

8時間扱いの第1時間 平成21年9月18日(金)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
本時のねらい (1) みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ 10分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック) 2 単元のめあて、学習時の約束の確認	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態を把握する。 単元のねらいを確認し、学習のイメージをつかめるようにする。 学習時の約束を確認し、みんなで楽しく活動することを意識できるようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 安全 思いやり 合図 </div>	
なか 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習内容 ○みんなで楽しく運動するには、安全、思いやり、合図を意識することが大切であること。 </div> 3 本時のめあての確認と準備運動 4 体ほぐしの運動 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 8、4、2、1のリズムで肩たたき(リズムに合わせて友だちの肩をたたく)。 風船バレーボール(風船を落さないようにグループで協力する)。 音楽に合わせて、みんなとタッチ(音楽に合わせてみんなとハイタッチなどをする)。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを確認し、友だちと協力することを意識するように促す。 音楽を流し、開放的な状態で運動できる雰囲気をつくる。 <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ楽しく取り組めないのかを明らかにし、楽しむ方法を一緒に探る。 その場で、できる運動から、活動的な運動へ変えていく。 	 <p>【関心・意欲・態度】 ①いろいろな運動に楽しく取り組もうとする。 (行動観察) (学習カード)</p>
まとめ 10分	5 学習カードの記入と振り返り 6 次時の学習の確認、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードの記入の仕方を確認し、記入方法のわからない児童には個別に説明する。 次時の確認をすることで、意欲をもって終わるようにする。 	



<授業の振り返り>

- 子どもたちは学習の規律ができていて、よく話をきくことができていた。
- 「風船バレー」が一番楽しいと30名の子どもが学習カードに書いていた。
- 「8、4、2、1のリズム」は、次への動きが流れてしまう子もいた。
- 体ほぐしの運動だったので、教え合いという場面は少なかったが、子どもたちは仲良く、楽しそうに体を動かしていた。

8時間扱いの第2時間 平成21年9月25日(金)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
ねらい2 動きを確認しながら運動し、体を移動する動き、用具を操作する動きができる。			
本時のねらい (1) 歩く動き、用具を運ぶ動きができる。 (2) 運動する場や用具の安全に気を付けながら運動する。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ5分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 ・8、4、2、1のリズムに合わせて、手をあげたり、ひざをたたいたりする。	・体ほぐしの運動では、クラス全員で円を作り、友だちの顔が見えるようにして行う。	
なか35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習内容 ○声をかけ合って、進むスピードを合わせる こと。 ○安全に気を付けて運動すること。 </div> 3 本時のめあての確認 4 歩く動き <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ア アヒル歩きをする。 イ アヒル歩きを3人、6人で行うことでムカデ歩きにつなげていく。 </div> 5 用具を運ぶ動き <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ア 2人で背中とお腹でボールをはさんで運ぶ。 イ 3人、6人と人数を増やしていく。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを確認し、這う、歩く動き、ボールを運ぶ動きを意識するように促す。 <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動する場や用具の安全の確認の仕方、大切さを再度伝える。 ・ムカデ歩きの時には、どうすれば歩きやすいか考えるように投げかける。 ・人数を増やすことで、力の入れ方を考えるようにしていく。 ・上手にできるようになるためには、どうしたらよいか確認しながら行わせる。 <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きを参考にし、動きのポイントを確認させ、子どもと一緒に行う。 	<p>【関心・意欲・態度】 ③運動する場や用具の安全に気を付けながら運動しようとする。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】 ①体を移動する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p>  <p>【運動の技能】 ②用具を操作する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p>
まとめ5分	6 学習カードの記入と振り返り 7 次時の学習の確認、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの記入の仕方を確認し、記入方法のわからない児童には個別に説明する。 ・次時の確認をすることで、意欲をもって終わるようにする。 	


<授業の振り返り>

- ・1人で動きを確認する時間を十分に確保したので、アヒル歩きの動きはできるようになった。
- ・ボールを運ぶ動きは、2人ではできるようになったが、3人や6人で運ぶというのは難しかった。
- ・ムカデの動きで、前の子どもを押ししまい転んでしまうという場面があったので、もう少し注意が必要だった。

8時間扱いの第3時間 平成21年9月30日(水)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
ねらい2 動きを確認しながら運動し、体を移動する動き、用具を操作する動きができる。			
本時のねらい (1) はねる動き、用具を跳ぶ動きができる。 (2) 友だちのよい動きを見付け、自分の動きに取り入れる。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ5分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 ・風船バレーボールを行う。	・グループの全員が風船に触れるようにすることで、声をかけながら行えるようにする。	
なか35分	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 両足できちんと跳ねること、なわを回す人の手をよく見ること。 ○ 友だちのよいところを見付けて、まねをすること。 <p>3 本時のめあての確認 4 はねる動き</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ア 1人でリズム(8、4、2、1、トン)に合わせて、左右にはねる。 イ 3人、6人で、左右、前後にチャレンジする。</p> <p>5 用具を跳ぶ動き</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ア 小波を跳ぶ。 イ 大波を1人、2人で跳ぶ。 ウ グループで4人が中に入り、連続で5回跳べるかチャレンジする。</p>	<p>・本時のねらいを確認し、はねる動き、用具を跳ぶ動きを意識するように促す。</p> <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒になって友だちのよい動きを探し、確認する。 ・1人で行うことから、人数を増やすことで、タイミングを合わせる難しさを加えていく。 ・声をかけながらタイミングを合わせるようにする。 ・回す役割を順番に行わせる。 <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きを参考にし、動きのポイントを確認させ、子どもと一緒に行う。 	<p>【思考・判断】</p> <p>①友だちのよい動きを見付け、自分の動きに取り入れようとしている。 (行動観察) (学習カード)</p>  <p>【運動の技能】</p> <p>①体を移動する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>②用具を操作する動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p>
まとめ5分	6 学習カードの記入と振り返り 7 次時の学習の確認、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を聞き、肯定的な声かけを行う。 ・次時の確認をすることで、意欲をもって終わるようにする。 	



<授業の振り返り>

- ・8や4、2、1という数の時に動きがきちんと止まることができなかったが、跳ねるという動きは上手になっていった。
- ・用具を跳ぶ動きでは、縄を回すという動きも重要であった。そのため、跳びづらそうにしている子どももいた。
- ・よい動きを見付け合う、どうしたらできるのかグループで考える場面をつくる必要があった。



8時間扱いの第4時間 平成21年10月2日(金)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
ねらい2 動きを確認しながら運動し、体を移動する動き、用具を操作する動きができる。			
本時のねらい (1) はねる動き、用具を投げる、捕る動きができる。 (2) きまりを守って、友だちと仲よく運動する。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ 5分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 ・風船バレーボールを行う。	・1人3回さわることをめあてにすることで、友だちと声をかけ合いながら行えるようにする。	
なか 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習内容 ○ 声に合わせて跳ねること、フープを後ろに引いてから、前に投げ、手のひらで捕ること。 ○ きまりを守って、友だちと仲よく運動すること。 </div> 3 本時のめあての確認 4 はねる動き ア ケンパケンパのリズムに合わせて、1人で跳ねる。 イ ケンパケンパケンケンパのリズムに合わせて、3人、6人で肩に手を置き、一列になり一緒に跳ねる。	・本時のねらいを確認し、はねる動き、フープを投げる、捕る動きを意識するように促す。 ・1人で行うことから、3人、6人で合わせて行うことで、運動に難しさを加える。 〈努力を要する児童への手立て〉 ・きまりを守ることの大切さや周りの友だちの気持ちについて一緒に考える。 ・どこに投げたら捕りやすいか確認する。 〈努力を要する児童への手立て〉 ・友だちの動きを参考にし、動きのポイントを確認させ、子どもと一緒にやる。	【関心・意欲・態度】 ②きまりを守って友だちと仲よく運動しようとする。 (行動観察) (学習カード)  【運動の技能】 ①体を移動する動きができる。 (行動観察) (学習カード) 【運動の技能】 ②用具を操作する動きができる。 (行動観察) (学習カード)
まとめ 5分	6 学習カードの記入と振り返り 7 次時の学習の確認、挨拶	・授業の感想を聞き、肯定的な声かけを行う。 ・次時の確認をすることで、意欲をもって終わるようにする。	

<授業の振り返り>

- ・はねる動きは、ケンステップを自分たちで置くことで、意欲的に取り組み、はねる動きもできるようになっていった。
- ・フープを捕ることは子どもたちにとって難しかった。2人で投げる距離を短くした子どもたちは上手にできていた。
- ・約束として掲示した「思いやり」という意識が、運動している中でやさしく投げるなどの行動として出るように指導したい。

8時間扱いの第5時間 平成21年10月7日(水)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
ねらい3 基本的な動きを組み合わせた動きができる。			
本時のねらい (1) 2つの基本的な動きを組み合わせた動きができる。 (2) 運動する場や用具の安全に気を付けて運動する。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ5分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 ・音楽に合わせてスキップし、音楽が止まったら友だちとハイタッチなどをする。	・エナジーチェックの前に大きな声を出して、元気に取り組めるようにする。 ・できるだけたくさんの友だちとハイタッチなどができるように声かけをする。	
なか35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なわを大きく回すこと、跳びはじめの声を合わせること、しっかりとフープを回してから移動すること。 ○ 安全に気を付けながら運動すること。 </div> <p>3 本時のめあての確認</p> <p>4 基本的な動きを組み合わせた運動①</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ア 大なわを跳びながら、ケンパのリズムで跳ぶ。 (1人→2人→4人)</p> </div> <p>5 基本的な動きを組み合わせた運動②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ア 1人でフープを回し、その場でキャッチする</p> <p>イ 3人で円になり、フープを回し、隣の人が回したフープをキャッチする。</p> </div>	<p>・本時のねらいを確認し、めあてをもって活動できるようにする。</p> <p>〈努力を要する児童への手だて〉</p> <p>・運動する場や用具の安全の確認の仕方、大切さを再度伝える。</p> <p>・1人で跳ぶ時間を確保し、動きを確認しながら運動できるようにする。</p> <p>・励まし合いながら運動できるように声かけをする。</p> <p>〈努力を要する児童への手だて〉</p> <p>・友だちの動きを参考にし、動きのポイントを確認させ、子どもと一緒に行う。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>③運動する場や用具の安全に気を付けながら運動しようとする。 (行動観察) (学習カード)</p>  <p>【運動の技能】</p> <p>③基本的な動きを組み合わせた動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p> 
まとめ5分	6 学習カードの記入と振り返り 7 次時の学習の確認、挨拶	・授業の感想を聞き、肯定的な声かけを行う。 ・次時の確認をすることで、意欲をもって終わるようにする。	

<p><授業の振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大なわを跳びながらのケンパは、子どもたちにとって難しそうであった。できている子どもは、足の開きが小さかった。 ・フープを回して、走ってキャッチする動きは、3人での活動で止まってしまった。もう少し、回し方や走る方向の具体的なポイントの説明が必要であった。 ・安全に関しては、具体的に伝えたので、子どもたちは意識をして運動できていた。

8時間扱いの第6時間 平成21年10月16日(金)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
ねらい3 基本的な動きを組み合わせた動きができる。			
本時のねらい (1) 2つの基本的な動きを組み合わせた動きができる。 (2) いろいろな運動に楽しく取り組む。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ 5分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 ・音楽に合わせて、友だちとハイタッチなどをする。	・できるだけたくさんの友だちとハイタッチなどができるように声かけをする。	
なか 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ きちんとボールの横から手で押さえること、真上に上がるようにボールをバウンドさせること。 ○ いろいろな運動に楽しく取り組む。 </div> <p>3 本時のめあての確認</p> <p>4 基本的な動きを組み合わせた運動①</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ア 2人組で、お互いの手のひらでボールをはさみ、小波を跳んでボールを移動させる。</p> <p>イ 3人組で同じように小波を跳んでボールを移動させる。</p> </div> <p>5 基本的な動きを組み合わせた運動②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ア ボールをバウンドさせてキャッチする。(1人)</p> <p>イ 3人組で円になり、ボールをバウンドさせて、隣の人のボールを捕る。</p> </div>	<p>・本時のねらいを確認し、めあてをもって活動できるようにする。</p> <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ楽しく取り組めないのかを明らかにし、楽しむ方法を一緒に探る。 ・できる動きから始め、人数を増やして難しくしていく。 ・どのようにしたら、移動してキャッチしやすいか考えながら、取り組むようにする。 〈努力を要する児童への手立て〉 ・友だちの動きを参考にし、動きのポイントを確認させ、子どもと一緒にやる。 ・声をかけながら運動に取り組むようにする。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>①いろいろな運動に楽しく取り組もうとする。 (行動観察) (学習カード)</p>  <p>【運動の技能】</p> <p>③基本的な動きを組み合わせた動きができる。 (行動観察) (学習カード)</p> 
まとめ 5分	6 学習カードの記入と振り返り 7 学習のまとめ、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を聞き、肯定的な声かけを行う。 ・これまでの学習のまとめをする。 	



<授業の振り返り>

- ・運動の仕方について、実際に子どもたちに動いてもらいながら具体的に説明をしたので、基本的な動きを組み合わせた運動はすぐにグループで取り組んでいた。
- ・縄跳びを組み合わせた動きについては、小波でもよいということにしたので、無理なくボールを運びながら跳ぶことができていた。
- ・できる運動を十分入れていたので、子どもたちはできることから運動に楽しく取り組んでいた。

8時間扱いの第7時間 平成21年10月30日(金)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
ねらい4 動きを選び、工夫しながら運動する。			
本時のねらい (1) 動きを選び、工夫しながら運動する。 (2) きまりを守って、友だちと仲よく運動する。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ 5分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 ・風船バレーを行う。	・グループで順番を決めて、その順番通りにできるように声をかけ合いながら活動できるようにする。	
なか 35分	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 用意した動きや工夫の例の中から、選んで運動をすること。 ○ きまりを守って、友だちと仲よく運動する。 <p>3 本時のめあての確認</p> <p>4 多様な動きをつくる運動 ・これまで行った動きの中から選んで行う。</p> <p>・コースを考えてムカデ歩きをしよう。 ・8、4、2、1のリズムに合わせて、どのようにはねるか考えよう。 ・ケンパのリズムを考えて跳ねよう。</p> <p>5 発表 ・グループで工夫しながら行った運動を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを確認し、楽しむ工夫や上手になるポイントを意識するように促す。 ・これまで行った運動の中からもう一度運動したいものをグループで相談して選ばせる。 ・並び方、跳ねる方向、ケンパのリズムをあらかじめ用意しておき選ばせる。 ・どの動きも1人の動きを確認し、3人の動きへ。できれば6人へと人数を増やしていく。 <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守ることの大切さや周りの友だちの気持ちについて一緒に考える。 <p>・励まし合いながら運動できるように声かけをする。</p> <p>〈努力を要する児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒になって考えながら、選ぶことができるようにする。 	 <p>【関心・意欲・態度】 ②きまりを守って友だちと仲よく運動しようとする。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【思考・判断】 ②楽しく運動できる行い方を選んでいく。 (行動観察) (学習カード)</p>
まとめ 5分	6 学習カードの記入と振り返り 7 次時の学習の確認、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を聞き、肯定的な声かけを行う。 ・次時の確認をすることで、意欲をもって終わるようにする。 	

<授業の振り返り>

- ・1つの動きにじっくりと取り組むことができたので、これまでより動きを合わせる事が上手になっていた。しかし、少し長く取り組みすぎてしまい、発表する時間が短くなり、工夫したところやよかったところなどの発表ができなかった。
- ・それぞれ選んだ運動の中で、声かけや進み方など工夫しながら運動していた。
- ・「準備はいい」「せーの」など友だちの動きを気にしながら、なかよく運動していた。

8時間扱いの第8時間 平成21年11月6日(金)			
ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
ねらい4 動きを選び、工夫しながら運動する。			
本時のねらい (1) 動きを選び、工夫しながら運動する。 (2) 友だちとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう。			
時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価
はじめ 5分	1 集合、挨拶、健康観察(エナジーチェック)、準備運動 2 体ほぐしの運動 ・風船バレーを行う。	・ゼッケンの順番でボールをさわるというルールで行い、みんながさわられるように声をかけ合いながら活動できるようにする。	
なか 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 用意した動きや工夫の例の中から、選んで運動をすること。 ○ 友だちとかかわり合いながら、楽しく運動する。 </div> <p>3 本時のめあての確認 4 多様な動きをつくる運動 ・これまで行った動きの中から選んで行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・コースを考え、お腹と背中にボールを挟みボール運びを行う。 ・並び方を考えながら、みんなでジャンプを行う。 ・フープを回して走ってキャッチする。 </div> <p>5 発表 ・グループで工夫しながら行った運動を発表し合う。</p>	 <p>・本時のねらいを確認し、楽しむ工夫や上手になるポイントを意識するように促す。 ・移動するコースを考えたり、たくさん的人数が跳ぶにはどうしたらよいか考えたり、フープの間隔を相談したりしながら取り組ませるようにする。</p> <p>〈努力を要する児童への手立て〉 ・一緒になって考えながら、選ぶことができるようにする。</p> <p>〈努力を要する児童への手立て〉 ・なぜ、楽しく取り組めないのかを明らかにし、楽しむ方法を一緒に探る。</p> <p>・励まし合いながら運動できるように声かけをする。</p>	 <p>【思考・判断】 ②楽しく運動できる行い方を選んでいく。 (行動観察) (学習カード)</p> <p>【関心・意欲・態度】 ①いろいろな運動に楽しく取り組もうとする。 (行動観察) (学習カード)</p>
まとめ 5分	6 学習カードの記入と振り返り 7 学習のまとめ	・授業の感想を聞き、肯定的な声かけを行う。 ・学習のまとめをして、今後の生活の中で体を動かそうという意識を高める。	

<授業の振り返り>

- ・フープを回して走ってキャッチする運動は、みんなが進む方向を工夫しながら6人でもできるようになっていた。また縄跳びは、並ぶ向きなどを工夫しながら今までよりも跳べるようになっていた。
- ・どの運動も友だちとかかわり合いながら運動していたので、6人での活動を楽しんでいた。

5 検証授業の結果と考察

研究主題に迫るため、検証授業から得られたデータを基に、分析の視点に沿って分析し、人数が増えていく挑戦的な運動課題に取り組むことによって、体の基本的な動きができるようになり、体を動かす楽しさを味わったかを考察していくこととする。なお、分析・考察を進める上で、文中に使用した図表の児童数については、**表3-2**の通りである。

表3-2

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
児童数	35	36	35	36	36	31	35	35

また、今回の検証では、形成的授業評価の調査票と診断基準を利用している。P9の**表2-2**の各項目、各次元、全項目について「はい」に3点、「どちらでもない」に2点、「いいえ」に1点を与えて平均点を算出する。そして、ここで得た平均点を**表3-3**の基準に照らして5段階で評価する。

「成果」次元は「感動の体験」、「技能の伸び」、「新しい発見」の3項目、「意欲・関心」次元は「精一杯の運動」、「楽しさの体験」の2項目、「学び方」次元は「自主的学習」、「めあてをもった学習」の2項目、「協力」次元は「なかよく運動」、「協力学習」の2項目で成り立っている。

表3-3 形成的授業評価の診断基準

次元	項目	評定				
		5	4	3	2	1
成果	1. 感動の体験	3.00~2.62	2.61~2.29	2.28~1.90	1.89~1.57	1.56~1.00
	2. 技能の伸び	3.00~2.82	2.81~2.54	2.53~2.21	2.20~1.93	1.92~1.00
	3. 新しい発見	3.00~2.85	2.84~2.59	2.58~2.28	2.27~2.02	2.01~1.00
	次元の評価	3.00~2.70	2.69~2.45	2.44~2.15	2.14~1.91	1.90~1.00
意欲・関心	4. 精一杯の運動	3.00	2.99~2.80	2.79~2.56	2.55~2.37	2.36~1.00
	5. 楽しさの体験	3.00	2.99~2.85	2.84~2.60	2.59~2.39	2.38~1.00
	次元の評価	3.00	2.99~2.81	2.80~2.59	2.58~2.41	2.40~1.00
学び方	6. 自主的学習	3.00~2.77	2.76~2.52	2.51~2.23	2.22~1.99	1.98~1.00
	7. めあてをもった学習	3.00~2.94	2.93~2.65	2.64~2.31	2.30~2.03	2.02~1.00
	次元の評価	3.00~2.81	2.80~2.57	2.56~2.29	2.28~2.05	2.04~1.00
協力	8. なかよく運動	3.00~2.92	2.91~2.71	2.70~2.46	2.45~2.25	2.24~1.00
	9. 協力学習	3.00~2.83	2.82~2.55	2.54~2.24	2.23~1.97	1.96~1.00
	次元の評価	3.00~2.85	2.84~2.62	2.61~2.36	2.35~2.13	2.12~1.00
総合評価（総平均）		3.00~2.77	2.76~2.58	2.57~2.34	2.33~2.15	2.14~1.00

(1) 人数が増えていく活動が挑戦的な運動課題になったか。

ア 人数が増えていく活動が挑戦的な運動課題になったか

(ア) VTRによる「人数が増えていく活動が、どの段階まで取り組めたか」の分析

P29、30の表3-4は、「各時間のねらった動きができたか（個人、グループ）」について、VTRを確認し、まとめた表である。「ムカデ歩き」、「ボール運び」、「8、4、2、1のリズム」、「みんなでジャンプ」、「ケンパのリズム」、「キャッチフープ」、「大なわケンパ」では、子どもたちは、第1段階から2段階、3段階へと取り組んでいる。

また、「フープ回して走ってキャッチ」、「大なわボール運び」、「バウンドさせて走ってボールキャッチ」では、子どもたちは、最初の段階から、次の2段階まで取り組んでいる。

(イ) 学習カードによる「自分のめあてに向かって何回も練習できましたか」の回答の分析

今回の授業では、P31、32の表3-5にあるようなめあてを教師の方から子どもたちに投げかけている。基本的には、この投げかけためあてを、子どもたちはめあてとして取り組んでいた。

図3-1は学習カードの「自分のめあてに向かって何回も練習できましたか」という質問に対する回答の結果である。

4～8時間目にかけては86%以上の数値でめあてに向かって何回も取り組んでいることがわかる。

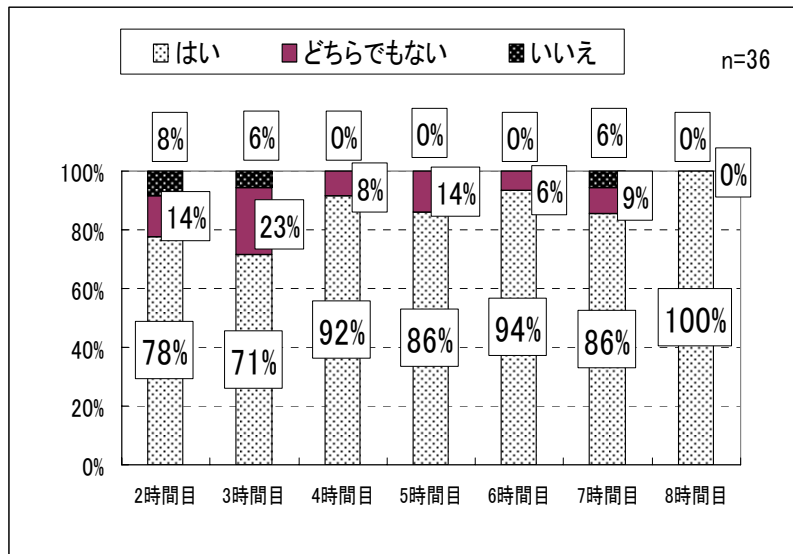


図3-1 「自分のめあてに向かって何回も練習できましたか」の回答結果

表3-4 各時間のねらった動きができたか（個人・グループ）

運動 具 体 段 階 人 数	2時間目						3時間目						4時間目					
	移動			用具			移動			用具			移動			用具		
	ムカデ歩き			ボール運び			8、4、2、1のリズム			みんなでジャンプ			ケンパのリズム			キャッチフープ		
	1 人	2 人	3 人	1 人	2 人	3 人	1 人	2 人	3 人	1 人	2 人	3 人	1 人	2 人	3 人	1 人	2 人	3 人
班 児 童	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※ 児童の番号は、時間ごとに異なる。
 ※ VTRを確認し、1回でもできれば○としている。
 ※ ーはVTRで確認することが難しかったもの、△は取り組んでいないもの、×は取り組んだができなかったものを表している。

表3-5 ねらった動き、めあて、難しさについて<>はできたらやってみようとして投げかけた動き

運動	動き	人数が増える活動			めあて	難しさ（・個人○グループ）	
		運動	ねらった動き				
			1人	グループ			
体を移動する運動	歩く	ムカデ歩き (アヒル歩きが縦につな がったもの)	しゃがみなが ら歩く(アヒ ル歩き)	・3人(縦に1列になり前の 人の肩に手を置く)で歩く ・6人で歩く	6人 で き に う	・しゃがみながら歩くこと ○歩くタイミングを合わせること ○友だちの肩に手を置きながらバランスを取りながら歩くこと	
		8、4、2、1のリズム (8、4、2、1のリズ ムに合わせてはねる)	8、4、2、 1のリズムに 合わせて左右 にはねる	・3人で手をつないで左右に はねる(1列になって、円 になって) ・6人で手をつないで左右に はねる(1列になって、円 になって)	6人 で き に う	・リズムに合わせてきちんと止まり、方向を変えてはねること ○はねるタイミングを合わせること ○横の人と距離を考えながらはねること	
		ケンパのリズム (ケンパケンパケン パのリズムに合わせては ねる)	ケンパのリズ ムに合わせて 前にはねる	・3人(縦に1列になり前の 人の肩に手を置く)で前に はねる ・6人で前にはねる	6人 で き に う	・片足、両足ではねること ○はねるタイミングを合わせること ○前の人と距離を考えながらはねること	
	用具を運ぶ	用具を運ぶ (お腹と背中 はさんで運ぶ)	ボール運び (お腹と背中 はさんで運ぶ)	友だちとお腹 と背中 はさんで運ぶ	・3人で2個のボールをはさ み運ぶ <・6人で5個のボールをは さみ運ぶ>	3人 で き に う	・お腹か背中に意識をすること ○進むタイミングを合わせること ○お腹と背中に意識をすること
			みんなでジャンプ (大なわとびをする)	大なわとびを する	・2人で大なわとびをする ・4人で大なわとびをする	4人 で き に う	・なわのスピードに合わせて跳ぶこと ・回し手は同じリズムで、大きく回すこと ○跳ぶタイミングを合わせること ○定位置で跳ぶこと ○回し手に近い子どもは、ジャンプを高くすること
			キャッチフープ (フープを投げたり、 捕ったりする)	その場の上に 投げ、両 手、片手で捕 る	・2人でフープを投げたり 捕ったりする ・2人で2個のフープを同時 に投げ、捕る ・3人で3個のフープを同時 に投げ、捕る <・6人で6個のフープを同 時に投げ、捕る>	3人 で き に う	・真上に投げて、捕ること ○投げるタイミングを合わせること ○相手が捕りやすいところに投げる、相手が投げるフープ を取ることを ○横に投げて、反対方向を向いて捕ること ○投げた後、すぐに捕らなくてはいけないこと

運動	動き	人数が増える活動		めあて	難しさ（・個人○グループ）
		運動	ねらった動き		
			グループ		
基本的な動きを組み合わせる運動	用具を跳ぶ、リズムの変化をつけてはねる	運動	1人	2人でできるように頑張ろう	・片足、両足でなわのスピードに合わせてとぶこと ○跳ぶタイミングを合わせること ○定位置で跳ぶこと
	走る、用具を回す捕る	大なわケンパ（大なわとびをしながらケンパをする） フープ回して走ってキャッチ（床の上でフープを回して、隣の人か回したフープを走ってキャッチする）	2人で大なわとびをしながらケンパをする ・4人で大なわとびをしながらケンパをする >	3人でできるように頑張ろう	・手首を使ってフープを回すこと ○始めるタイミングを合わせること ○距離も長くなるので、相手が捕りにくくなるまでの間、しっかり回すこと
	用具を跳ぶ、用具を運ぶ	大なわボール運び（ボールを手ではさみながら、なわを跳ぶ）	相手の片手と自分の片手でボールを押さえないながら、なわを跳ぶ	3人でできるように頑張ろう	・相手と合わせながら、ボールの中心を押さえないこと ○進む、跳ぶタイミングを合わせること ○右（左）だけを気にするのではなく左（右）も気にしなくてはいけないこと
	走る、用具を捕る	バウンドさせて走ってボールキャッチ（ボールをバウンドさせて、相手のバウンドさせたボールを走ってキャッチする）	3人でバウンドさせて走ってボールキャッチをする ・4人で大なわボール運びをする >	3人でできるように頑張ろう	・ボールが真上に上がっていくようにバウンドさせること ○始めるタイミングを合わせること ○相手が捕りやすいようにバウンドさせること

(ウ) 学習カードによる「人数が増えていく活動はどうでしたか」の回答の分析

図3-2は学習カードの「人数が増えていく活動はどうでしたか」という質問に対する回答である。「頑張ってきた」というコメントは、「ケンパのリズム」、「バウンドさせて走ってボールキャッチ」を除き、一番多い割合となっている。

7、8時間目の「動きを選び、工夫しながら運動する時間」では、75%以上の子どもが「ケンパのリズム」や「8、4、2、1のリズム」、「ムカデ歩き」、「みんなでジャンプ」で「頑張ってきた」と答えている。

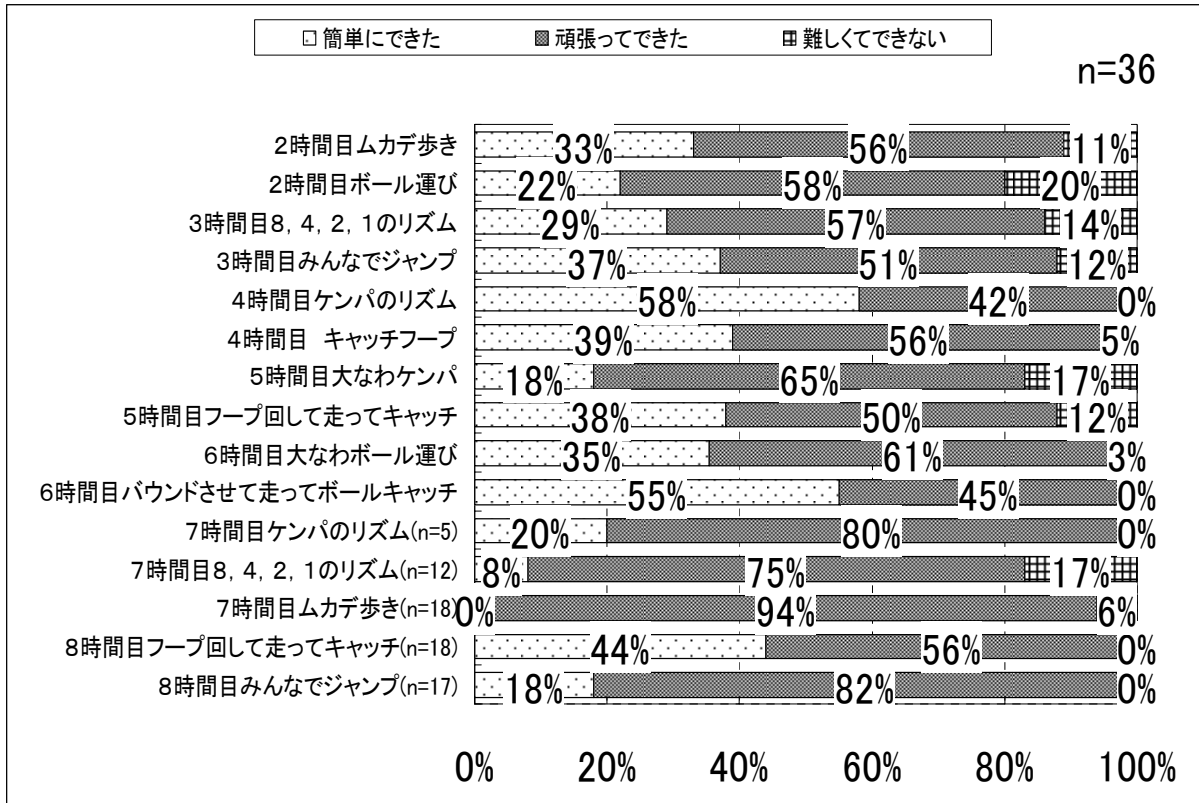


図3-2 「人数が増えていく運動はどうでしたか」という質問に対する回答（学習カード）

(1) ア「人数が増えていく活動が挑戦的な運動課題になったか」についての考察

今回の授業では、挑戦的な運動課題を「段階的に難しくなっていく課題の達成に向けて、何回も取り組みたくなるもの」と考えて取り組んできた。

表3-4にあるように子どもたちは、1人（ボールを運ぶものは2人）の1段階から2人または3人、4人または6人と2段階、3段階へと取り組んでいたことが分かる。子どもたちは、各段階で、ある程度その運動ができるようになると「次は○人でやってみよう」と声をかけ合い、次の段階へと取り組んでいた。このようなことから、段階的に難しくなっていく課題の達成に向けて取り組んでいたと考えられる。「フープ回して走ってキャッチ」の活動では、2段階での活動の中で、走る距離を長くしていく活動の時間が多くなり3段階での活動までいかなかった。「バウンドさせて走ってボールキャッチ」は動き方が分からずに2段階での活動に時間がかかってしまった。同じように「大なわボール運び」では、2段階の3人のボール運びが難しく時間がかかってしまった。

また、図3-1から、多くの子どもたちが、人数が増えていく活動に何回も取

り組んでいることがわかる。3段階の活動を提示したので、子どもたちは、次の段階、その次の段階へと各段階の課題の達成に向けて挑戦的に取り組むことができたと考える。2時間目に他の時間より「はい」と答えた人数が低かったのは、教師の指示によってすべての運動が行われたからではないかと考えられる。同じように3時間目に「はい」と答えた人数が低かったのは、「みんなでジャンプ」という大なわを跳ぶ運動を苦手としている子どもが、何人かいたり、なわを回す子どもによって跳びやすい、跳びにくいということがあったりして、高い数値を示さなかったと思われる。

図3-2から、「ケンパのリズム」、「バウンドさせて走ってボールキャッチ」を除いた13の運動で、「頑張ってきた」と感じた子どもの割合が、3つの選択肢の中で一番多かった。できるようになると、子どもたちが少し難しいと感じる次の段階があったので「頑張ってきた」と感じるような運動課題になったのではないかと考える。「ケンパのリズム」はもう少し、難しいリズムで人数が増えていく活動をし、「バウンドさせて走ってボールキャッチ」は6人で取り組むことを目指すと「頑張ってきた」という課題になるのではないかと考えられる。

(1) まとめ

以上のことから、次のことが明らかになった。

- 多くの子どもたちが、人数が増えていく活動で、1段階、2段階、3段階と課題の達成に向けて取り組んでいた。
- 多くの子どもたちが、人数が増えていく活動のめあてに向かって何回も取り組んでいた。
- 人数が増えていく活動は、「頑張ってきた」と感じるすることができる運動課題であった。

これらのことから、人数が増えていく活動は、挑戦的な運動課題になったと考えることができる。

(2) 人数が増えていく活動にグループで取り組むことができたか。

ア 人数が増えていく活動のめあてに向かってグループで取り組むことができたか

(ア) 形成的授業評価による「自主的学習」「めあてをもった学習」、「学び方」次元の回答の分析

今回の多様な動きをつくる運動では、グループごとに学習の進め方やめあてを書いたプリントを配布し、「○人でできるように頑張ろう」とめあてを投げかけて学習を進めてきた。

図3-3は、「自分から進んで学習することができましたか」という形成的授業評価の項目「自主的学習」に対する回答の平均と評価の推移である。低い平均は2時間目の2.72、高い平均は6時間目の2.9となっている。1番低い2時間目で5段階評価にすると4という評価になる。

図3-4は、「自分のめあてに向かって何回も練習できましたか」という形成的授業評価の項目「めあてをもった学習」に対する回答の平均と評価の推移である。低い平均は3時間目に2.66、高い平均は8時間目の3ということになっている。一番低い3時間目の平均で、5段階評価にすると4という評価になる。

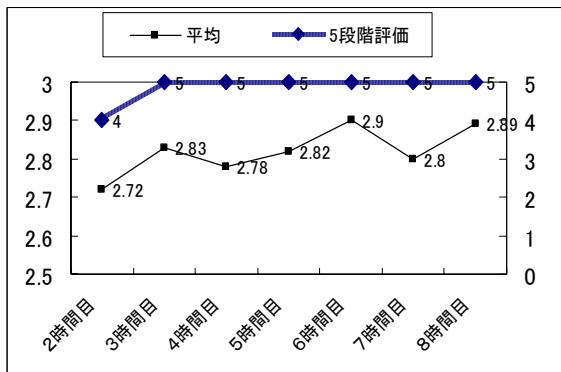


図3-3 「自主的学習」の平均の推移
(形成的授業評価)

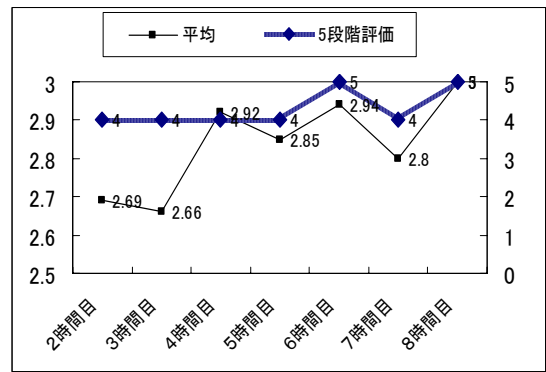


図3-4 「めあてをもった学習」の平均の推移
(形成的授業評価)

図3-5は、学習の自発性や学習の合理性を問う「学び方」次元の平均と評価の推移である。5段階評価は、「自主的学習」「めあてをもった学習」の2つの項目の平均を診断基準に照らしたものである。低い平均は、2時間目の2.71、高い平均は8時間目の2.94となっている。1番低い2時間目で、5段階評価にすると4以上という評価になる。

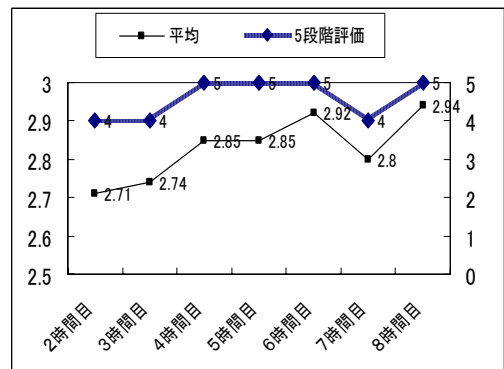


図3-5 「学び方」次元の推移
(形成的授業評価)

(イ) VTRによる各班の活動の様子分析

表3-6は具体的な活動の様子的事例をあげたものである。表にあるように子どもたちは、各班に配布しためあてのプリントを見て、段階ごとに活動を進めていた。

表3-6 具体的な活動の様子的事例

運動	活動の様子 (事例)
「8、4、2、1のリズム」	1人の動きを全体で確認した後、めあてが書いてあるプリントを見ながら、すぐに3人での活動に取り組んでいた。 (6人での活動が少なかったため、6人で活動している見本を見せた後)めあてを再確認し、6人での動きに取り組んでいた。
「みんなでジャンプ」	だんだんと取組が早くなってきた。みんなが跳べるようになるとめあてを見に行き、「次は2人だよ」「4人だよ」と声をかけている。4人でのジャンプの時には、見ている子どもがジャンプと声をかけたり、中の子どもが「早いよ」と声をかけたりしている。

(2) ア 「人数が増えていく活動のめあてに向かってグループで取り組むことができたか」の考察

今回の授業では、子どもたちにめあてを「〇人までできるように頑張ろう」と示し、見える場所に掲示することで、段階を確認しながら学習を行うようにしてきた。

図3-3、図3-4から、子どもたちはめあてに向かって、自分から進んで学習していたと考えることができる。図3-3、図3-4の2時間目に数字が低いのは、最初の活動ということで、教師主導で1人から3人、6人へと活動していったため、子どもたちが進んで学習していると感じなかったのではないかと、また、教師の指示のまま行ったため、めあての意識が薄かったのではないかとと思われる。図3-4の3時間目の平均が低いのは、なわとびが苦手な子どもが何人かいたり、なわを回す子どもによって跳びやすい、跳びにくいということがあったりしたからではないかと考える。また、7時間目に平均の数値が落ちているのは、学習カードに「運動に工夫しながら取り組みましたか」というめあてに対する回答の項目がなく、あいまいになってしまったのではないかと考える。図3-3、図3-4の4時間目以降に評価が上がってきたのは、「〇人までできるように頑張ろう」というめあてをグループごとに掲示し、それを見ながら子どもたちが学習を進めていくということに慣れてきたのではないかとと思われる。また、VTRの様子からも表3-6にあるように子どもたちが、実際に掲示しためあてを見ながら学習している様子が確認できた。

図3-5の「学び方」次元の5段階評価が毎時間4以上という評価結果からも、子どもたちは、グループのめあてに向かって、自分から進んで学習に取り組んでいたと考えられる。

イ 人数が増えていく活動にグループで協力して取り組むことができたか

(ア) 形成的授業評価による「なかよく運動」「協力学習」、「協力」次元の回答の分析

図3-6は、「友だちと協力して、なかよく学習できましたか」という形成的授業評価の項目「なかよく運動」に対する回答の平均と評価の推移である。低い平均は3時間目の2.71、高い平均は6時間目の3となっている。1番低い2時間目で5段階評価にすると4という評価になる。

図3-7は、「友だちとお互いに教えたり、助けたりしましたか」という形成的授業評価の項目「協力学習」に対する回答の平均と評価の推移である。低い平均は3時間目の2.57、高い平均は8時間目の2.94となっている。1番低い3時間目で5段階評価にすると4という評価になる。

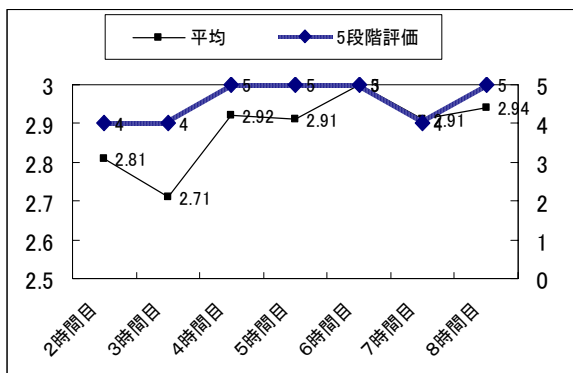


図3-6 「なかよく運動」の平均の推移
(形成的授業評価)

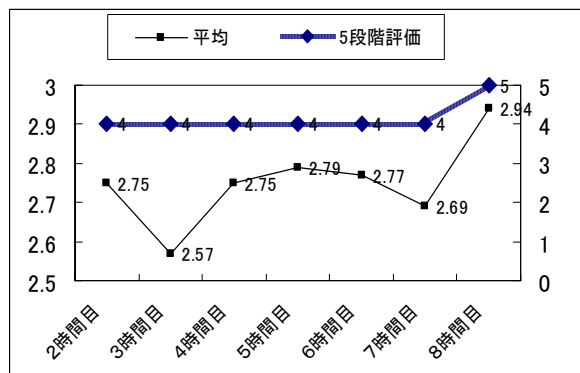


図3-7 「協力学習」の平均の推移
(形成的授業評価)

図3-8は、友だちとの人間関係を評価するものである「協力」次元の平均と5段階評価の推移である。5段階評価は、「なかよく運動」「協力学習」の2つの項目の平均点を診断基準に照らしたものである。低い平均は3時間目の2.64、高い平均は8時間目の2.94となっている。1番低い3時間目で5段階評価にすると4という評価になっている。

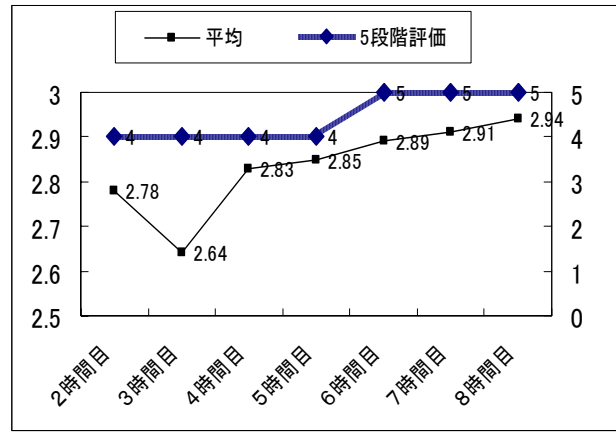


図3-8 「協力」次元の推移
(形成的授業評価)

(イ) 学習カードによる「人数が増えていく運動を行った時どのような声かけをしましたか」の回答の分析

図3-9は学習カードの「人数が増えていく運動を行った時、どのような声かけをしましたか」という質問に対する回答のうち、動きができる・そろうための声かけを書いた人数の変化を表したものである。

授業の2時間目から高い数値を示し、その後27人以上は動きができるための声をかけて運動をしていたことがわかる。

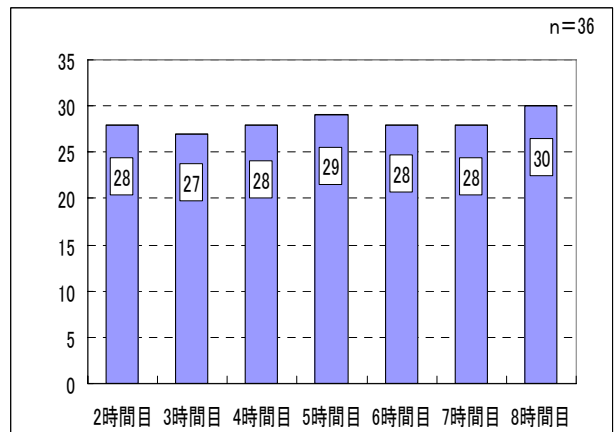


図3-9 動きに関する声かけを記入した人数の変化 (学習ノート)

(ウ) 事前事後アンケートによる「友だちと教え合って運動できましたか」の回答の分析

図3-10は事前事後アンケートの「友だちと教え合って運動できましたか」という質問に対する回答の事前事後の比較である。

「いつも教え合って運動している」子どもが、31%から44%になり、「いつも教え合って運動していない」という子どもが6%から0%になった。

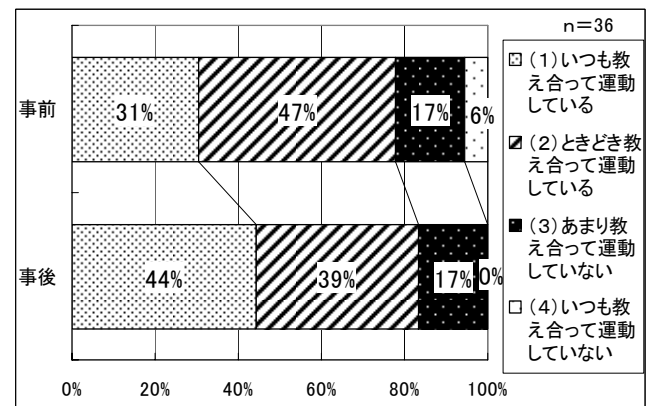


図3-10 「友だちと教え合って運動できましたか」という質問に対する回答の事前事後の比較

(2) イ 「人数が増えていく活動にグループで協力して取り組むことができたか」についての考察

今回の授業では、単元を通して同一メンバーでグループを構成し、人数が増えていく活動に取り組んできた。

図3-8から、授業が進むにつれて「協力」次元の評価が高くなっていることから、子どもたちはよい人間関係の中で学習していたと考える。特に7、8時間目は、「フープだけ、6人でやったことがなかったから」、「跳べる人も、跳べない人もいるから」といった理由で運動を選んだグループもあった。これは、これまでグループで取り組んできたからだと思われる。

図3-6では、どの時間も4以上の評価であること、また、5の評価が4、5、6、8時間目と4回あることから、多くの子どもたちは、なかよく学習していると考えられる。図3-6、図3-7の3時間目の平均が低いのは、なわを回す子どもによって跳びやすさ、跳びにくさがあったために「もっと上手にまわしてよ」という不満があった子どもがいたからではないかと思われる。また、「協力学習」の回答の平均が7時間目に少し減少しているのは、グループでムカデのコースを作ったり、跳ぶ方向を考えたりした後は、同じ人数での活動が続き、その後のかかわり方が単調になったからではないか考える。

図3-9から、多くの子どもたちが、グループの仲間に動きに関する声かけをしていると思われる。今回の人数が増えていく活動では、人数が増えることで友だちとのタイミングを合わせる、友だちとの距離を考えるなどの難しさがあった。学習カードを見ると、子どもたちの友だちとかけ合った声は、タイミングを合わせる声が多かった。友だちとタイミングを合わせるということも協力して運動したという気持ちの高まりにつながったのではないかと考えられる。

図3-10から、事後のアンケートで「いつも教え合って運動している」という子どもは31%から44%になり、「いつも教え合って運動していない」という子どもは6%から0%になった。しかし、「あまり教え合って運動していない」という子どもの人数の変化がなかったのは、今回の授業の中では、お互いの運動を見合う場面を設定し、「動きを見た感想を言ってあげよう」という投げかけをしたが、感想の伝え方については、例えば「動きが合っていたよ」「ゆっくり跳んだ方がいいよ」「動きが合っていないよ」など具体的な例示やどこを見るかのポイントを示せばもっと教え合って運動することができたのではないかと考える。

(2) まとめ

以上のことから、次のようなことが明らかになった。

- 多くの子どもたちが、人数が増えていく活動にグループで取り組むことで、協力して、なかよく運動することができた。
- 人数が増えていく活動にグループで取り組むことで、多くの子どもたちが声をかけ合いながら運動に取り組むことができた。
- 人数が増えていく活動にグループで取り組むことで、教え合って運動している子どもが増えた。

これらのことから、人数が増えていく活動にグループで取り組むことができたと考えることができる。

(3) 人数が増えていく活動で、ねらった動きができたか。

ア 人数が増えていく活動で、ねらった動きができたか

(ア) VTRによる「人数が増えていく活動がどの程度までできたか」の分析

今回の多様な動きをつくる運動の学習では、P31、32の表3-5にあるような1人での動き、グループでのめあての動きができるようになることをねらった。

表3-7は、P29、30の表3-4をもとにし、各段階までにねらった動きができた人数、めあてに達したグループの割合を表したものである。

子どもたち一人一人の動きに注目すると、「8、4、2、1のリズム」の運動は段階が進んでいっても3%の子どもができなかった。それ以外の運動では、段階が進んでいくうちに全員の子どもたちが1度はできるようになった。特に、「8、4、2、1のリズム」「大なわケンパ」では、1段階でできた子どもが78%、88%だったが、2段階、3段階へと進む中で97%、100%となっている。

グループとしての活動に注目すると、10の運動のうち、7つで80%以上の子どもたちがグループのめあてを達成することができた。「ムカデ歩き」、「みんなでジャンプ」、「バウンドさせて走ってボールキャッチ」では100%子どもたちがグループのめあてを達成していた。しかし、「キャッチフープ」はめあてが達成できなかった。

表3-4からそれぞれの運動を段階的にみると、2段階（2人、3人で合わせる）は大変多くの運動でできていた。3段階（4人、6人で合わせる）は「ボール運び」「フープを回して走ってキャッチ」、「大なわボール運び」、「バウンドさせて走ってボールキャッチ」の活動で、取り組んだができない、あるいは、取り組む時間がなかったが、その他の運動では、3段階までできるようになっている。

表3-7 各段階までにねらった動きができた人数、グループの割合

運動	1人			グループ		
	1段階 までに できた 割合	2段階 までに できた 割合	3段階 までに できた 割合	めあて	めあて が でき た 割合	
移動	ムカデ歩き	97%	100%	100%	6人でできる	100%
	8、4、2、1のリズム	78%	94%	97%	6人でできる	83%
	ケンパのリズム	100%	100%	100%	6人でできる	80%
用具	ボール運び	100%	100%	100%	3人でできる	83%
	みんなでジャンプ	100%	100%	100%	4人でできる	100%
	キャッチフープ	100%	100%	100%	3人で3個できる	0%
組み 合わせ	大なわケンパ	88%	100%	100%	2人でできる	94%
	フープ回して走ってキャッチ	100%	100%		3人でできる	72%
	大なわボール運び	100%	100%		3人でできる	60%
	バウンドさせて走ってボールキャッチ	100%	100%		3人でできる	100%

(イ) 形成的授業評価による「技能の伸び」、「成果」次元の回答の分析

図3-11は「今までできなかったことができるようになりましたか」という形成的授業評価の項目「技能の伸び」に対する回答の平均と評価の推移である。1番低い平均は2時間目の2.58、高い平均は6時間目の2.87となっている。1番低い2時間目で5段階評価にすると4という評価になる。

図3-12は、技能的成果をみる項目であるといってもよい「成果」次元の平均と評価の推移である。5段階評価は「感動の体験」「技能の伸び」「新しい発見」の3つの項目の平均点を診断基準に照らしたものである。一番低い平均は、2時間目で2.39、高い平均は8時間目の2.72となっている。1番低い2時間目で5段階評価の3という評価になる。

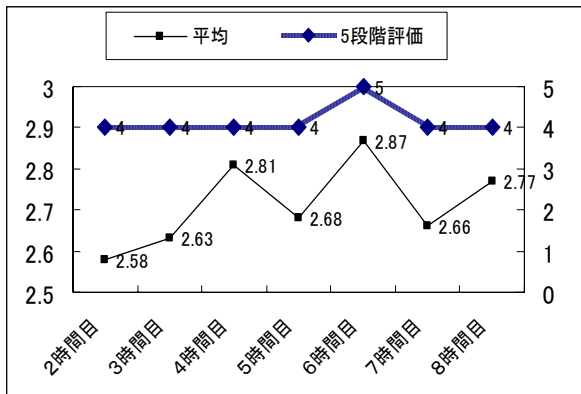


図3-11 「技能の伸び」の平均と評価の推移（形成的授業評価）

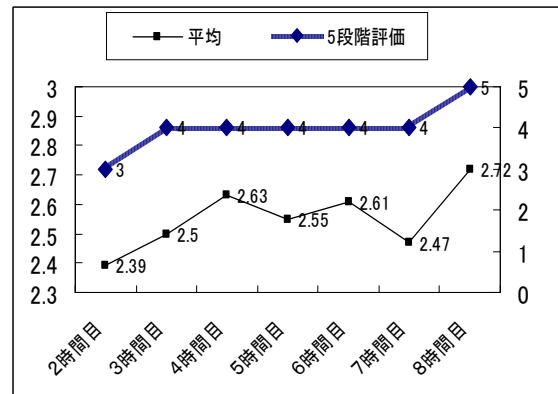


図3-12 「成果」次元の推移（形成的授業評価）

(3) ア 「人数が増えていく活動で、ねらった動きができたか」についての考察

今回の多様な動きをつくる運動では、まず1人で取り組み、動きを確認してから、グループの2人や4人、6人がそろってできるように取り組んできた。

表3-7から、1人での動きはほぼ全員できたと考える。中には、「8、4、2、1のリズム」の活動のように、最初の段階ではできなかったが、2段階、3段階と取り組む中で、動きができるようになった子どもたちがいた。今回の授業では、人数が増えても動き自体は変わらないので、同じ動きに人数を変えながら、活動が単調になることなく何回も取り組むことができるよさがあったからではないかと考えられる。

グループでの活動を見ると、多くのグループがめあてを達成していたことから、友だちとタイミングを合わせながら、多くの子どもたちが、動きができるようになった考える。子どもたちは、1人でできていたことを友だちと一緒にできるようになろうと声をかけあったり、人数が増えていく中で、できた時には「先生、6人でできたよ」と喜んだりする姿が見られた。しかし、「キャッチフープ」は、全部のグループでめあてが達成しなかった。設定しためあてが難しかったと考えられる。

また、図3-11、図3-12から、ほぼ全部の時間で5段階評価が4以上となっている。このことから、多くの子どもたちは、技能的な達成を感じたのではないかと考える。課題が3段階あったので、それぞれの段階で、できたという感覚をもったからではないかと考えられる。7時間目は、これまで子どもたち自身はできていると感じている動きを「動きを選び、工夫して運動する時間」として行ったので平均が下がったのではないかとと思われる。

(3) まとめ

以上のことから、次のようなことがあきらかになった。

- 人数が増えていく活動に取り組む中で、ほぼ全員の子どもたちがねらった動きができるようになった。また、多くの子どもたちが、人数が増えても友だちの動きに合わせてできるようになった。
- 人数が増えていく活動に取り組む中で、多くの子どもたちが技能的な達成を感じていた。

これらのことから、人数が増えていく活動で、ねらった動きができるようになったと考えることができる。

(4) 体を動かす楽しさを味わったか。

ア 体を動かす楽しさを味わうことができたか

(ア) 形成的授業評価による「精一杯の運動」「楽しさの体験」、「関心・意欲」次元の回答の分析

図3-13は「精一杯、全力をつくして運動することができましたか」という形成的授業評価の項目「精一杯の運動」に対する回答の点数の平均と評価の推移である。低い平均は3時間目の2.83、高い平均は6時間目の2.97となっている。1番低い3時間目で5段階評価にすると4という評価になる。

図3-14は「楽しかったですか」という形成的授業評価の項目「楽しさの体験」に対する回答の点数の平均と評価の推移である。低い平均は3時間目の2.83、高い平均は6時間目、8時間目の3となっている。1番低い3時間目で5段階評価にすると3という評価になる。

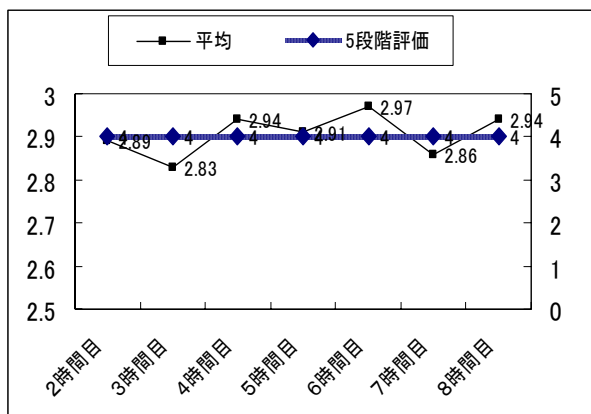


図3-13 「精一杯の運動」の平均と評価の推移（形成的授業評価）

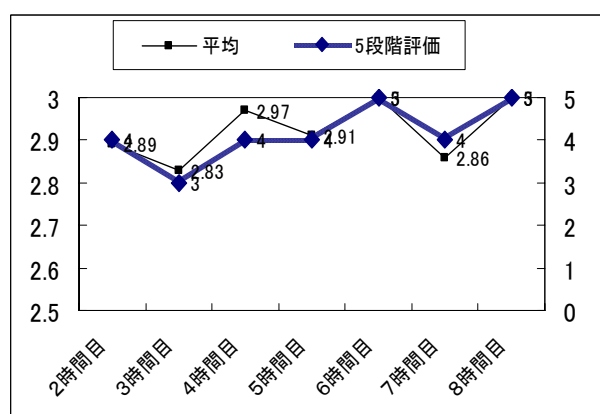


図3-14 「楽しさの体験」の平均と評価の推移（形成的授業評価）

図3-15は運動欲求の充足度を評価する「関心・意欲」次元の平均と評価の推移である。子どもたちにとって体育授業が楽しかったかどうかのバロメーターとなる。どの時間も4という評価になっている。この項目、次元は全員がはい(3)と答えないと評価は5にはならない。「関心・意欲」次元の平均値はどの時間も2.8を超える値を示している。

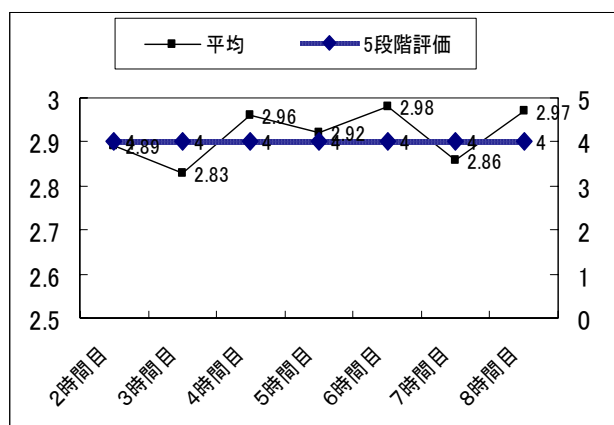


図3-15 「関心・意欲」次元の平均と評価の推移(形成的授業評価)

(イ) 事後アンケートによる「体づくり運動をした感想」の回答の分析

図3-16は、「体づくり運動をした感想を書いてね」の質問に対して「多様な動きをつくる運動」について感想を書いた子どもの割合である。多様な動きをつくる運動について楽しいと書いたのは、78%(36名中28名)であった。

表3-8は事後アンケート「体づくり運動の感想を書いてね」に対して、「多様な動きをつくる運動」について感想を聞いた全員の回答をまとめたものである。

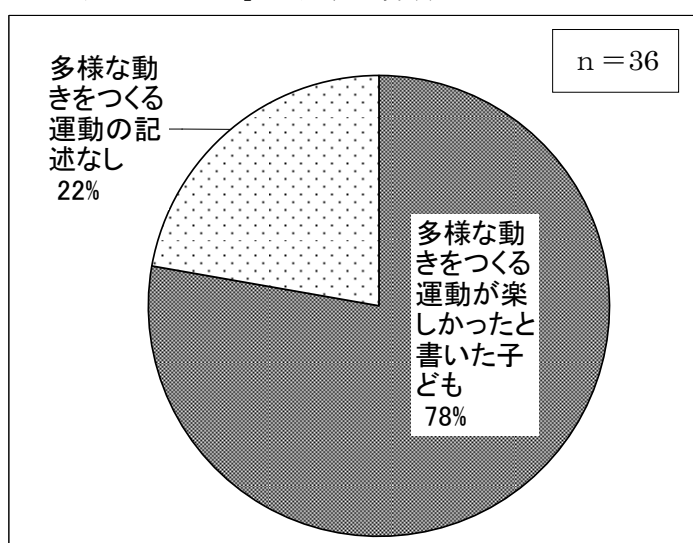


図3-16 「多様な動きをつくる運動」の内容に関して楽しかったと答えた子どもの割合

表3-8 「体づくり運動の感想を書いてね」に対する回答

今日なわとびをした時、たくさんとべたからうれしかった。キャッチフープをした時、おとしちゃった時もあったけどとても楽しかった。ムカデ歩きをした時にとちゅうでたおれちゃった時もあったけどすごく楽しかった。
体がつかれたけど楽しかった。走ってフープをキャッチする時は一生けんめい全力ダッシュをした。ふうせんバレーはやさしくうって相手にとりやすいようにアタックしたし、落とさないようにした。
本当に全部楽しく勉強ができてよかったです。8回しかない高橋先生との勉強だったけど楽しかったです。また、大井小学校に来たら体育の授業をしてください。クラスの先生になってほしいです。
すごく楽しいし、自由に動けたし、すごく楽しかったし、うれしかったです。なわとびが2人で29回ぐらいとべたことがうれしかったです。

<p>ふうせんバレーとかキャッチフープが楽しかったです。ふうせんバレーはジャンプとかできるから。走ってフープをキャッチする時は、体が自由に走ったりするから楽しかったです。フープがまわらせて楽しかったです。</p>
<p>ふうせんバレーをやったことがなかったので、とっても楽しかったです。今までできなかったことがあったけどできるようになってうれしかったです。友だちとたくさん体を動かさせたのが楽しかったです。</p>
<p>おもしろかった。楽しかった。友だちとなかよくできた。また、やりたくなってきた。体づくり全部楽しかった。</p>
<p>ふうせんバレーが楽しくみんなのできたから一番心に残っています。フープもきれいにまわらせて、みんなでキャッチができて成功できたからこれも心に残りました。あと、なわとびはうまくできなかったけどがんばってできたからよかったです。家にふうせんがあるので家でやりたいと思っています。</p>
<p>ボールについてキャッチが一番楽しかった。ふうせんバレーがたくさんふうせんをさわられてよかった。6人でフープをやった時、むずかしかったけど楽しかった。ムカデ歩きが足がつかれて大変だった。なわとびをやった時、楽しかった。みんなで合わせてとぶのが大変だった。8時間楽しく体を動かせた。ありがとうございました。</p>
<p>体づくりをやった時のなわとびが楽しかった。</p>
<p>体づくりの体育、全部楽しかったです。とくに走ってフープをキャッチすることと風船バレーが楽しかったです。ムカデ歩きがとくに一番楽しかったです。いつもありがとうございました。</p>
<p>いろいろと体をつくる運動をたくさんしていたので、体も覚えてきて大人になってもわすれないと思います。また、ふうせんバレーなどキャッチフープなど友だちとたくさん運動できていたのでうれしかったです。そしていつも声をかけて運動できて、高橋先生との授業をして楽しかったです。</p>
<p>ふうせんバレーでたくさんさわられて、フープを回して走ってキャッチで、6人でできたことがうれしかった。ムカデ歩きで長いきりまでいけてよかった。おなかとせなかでボールをはさんではこんでできてよかった。手と手ではこぶやつで走っていけてよかった。</p>
<p>すごく楽しかった。8, 4, 2, 1のリズムはさいしょはすごくむずかしかったけど、後からかたとかやって練習して上手にできたからよかった。ふうせんバレーが楽しかった。高橋先生といっしょに体育ができたからうれしかった。友だちと一緒に体育ができたからよかった。体づくりの運動ができたからよかった。</p>
<p>体育はにがてでした。でも、フープを買ってもらうほど好きになりました。ふうせんバレーは外ではできないので家の中でやってみます。はじめてやった時、少しきんちょうしたけど意味がわかりやすくやりやすかったです。また、いろいろな体づくりの運動をやりまます。ボールはさみ楽しかったです。</p>
<p>いろいろな運動をやってきた中でもふうせんバレーがおもしろくて好きです。それと、なわとびとかなわをとんだりする遊びやボールを使う遊びも好きです。</p>
<p>キャッチフープをやって楽しかったです。</p>
<p>ふうせんバレーやキャッチフープをするやつなどがとても楽しかったです。</p>
<p>できなかったところができるようになったり、みんなでふうせんバレーと、フープをまわして走ってキャッチがとてもおもしろかったです。できなかったことがいろいろとできてよかったです。また、自分でも練習したいです。</p>
<p>ふうせんバレーとかなわとびが楽しかったです。みんなといっしょに遊べるから楽しいです。</p>
<p>高橋先生としたムカデ歩きやふうせんバレーとか、とっても楽しかったです。</p>

いい運動をして、なんかきらいなものがどんどんなくなってきてよかったって感じになりました。

ふうせんバレーやみんなでジャンプをした時が楽しかったです。ふうせんバレーのみんなでできるところが好きです。

ふうせんバレーやキャッチフープがうまくできたことがよかったし、みんなとたまにけんかしちゃったりすることがあるけどなかよくできた。

フープ遊びや難しい動きがあったけど楽しくできた。

ふうせんバレーがわくわくしてみんなも楽しくやって、楽しくできた。なわとびがみんなでやって、すごいいっぱいとべてうれしかった。高橋先生といっしょに運動すると今までできないことができた。

ふうせんバレーやなわとびやキャッチフープやいろいろなことをして楽しかったです。みんなの前で見本を見せた時がよかったです。6人のグループで発表をしたことがとてもよかったです。高橋先生の体育の授業がとても楽しかったです。

(ウ) 事前事後アンケートによる「体育で体を動かすことは楽しいですか」の回答の分析

図3-17は事前事後アンケートの「体育で体を動かすことは楽しいですか」という質問に対する回答の事前事後の比較である。

「いつも楽しく体を動かしている」という子どもが75%から86%になり、「いつも楽しく体を動かしていない」という子どもが3%から0%になった。

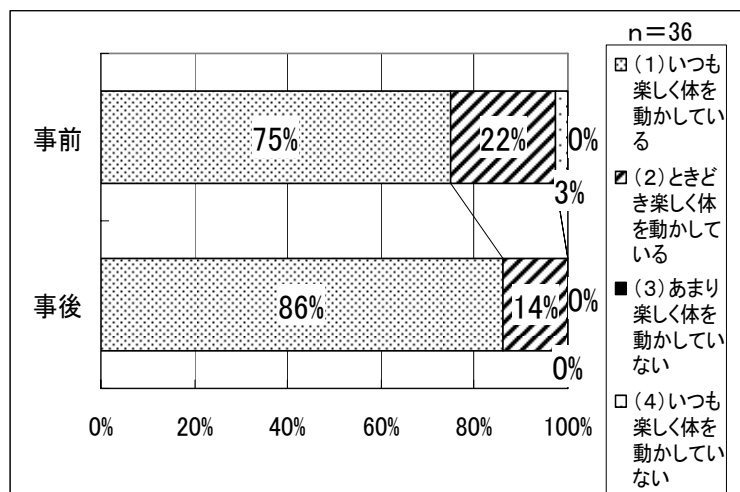


図3-17 「体育で体を動かすことは楽しいですか」の事前事後のアンケートの結果の比較

(4) ア「体を動かす楽しさを味わうことができたか」についての考察

運動の充足度を評価する「関心・意欲」次元の平均と評価の推移(図3-15)から、多くの子どもたちは、精一杯体を動かし、楽しめたのではないかと考えられる。

事後アンケートの感想からの分析では、「多様な動きをつくる運動」の内容を楽しかったと書いた子どもは78%(28名)(図3-16)であったので、多くの子どもたちが「多様な動きをつくる運動」を楽しんでいたことが分かる。また、風船バレーが楽しかったという感想も多く見られた。風船バレーが多かった理由は、「体ほぐしの運動」として8時間の単間の間に5回(1時間目と3、4、7、8時間目のはじめ)活動しているので、楽しかった印象として強く残っているのだと思う。

事前事後アンケートでは、いつも楽しく体を動かしていないという子どもが、変容したことは、今回的人数が増えていくという活動で体を動かす楽しさを味わったと考えることができる。また、いつも楽しく体を動かしているという子どもも増えたことから、大変多くの子どもたちが体を楽しく動かすことができたのではないかと考えられる。

(4) まとめ

以上のことから、次のようなことが明らかになった。

- 多くの子どもたちが、人数が増えていく活動に取り組むことによって、精一杯体を動かすことができた。
- 大変多くの子どもたちが、人数が増えていく活動に取り組むことによって、楽しさを味わうことができた。

これらのことから、人数が増えていく活動に取り組むことによって、体を動かす楽しさを味わうことができたと考えることができる。

6 指導の工夫とその効果及び課題

(1) 多様な動きをつくる運動（遊び）について

ア 挑戦的な運動課題

今回の体づくり運動では、挑戦的な運動課題として、グループの中で人数が増えていく活動を設定した。行った運動は、表3-9である。ほとんどの運動において、グループ内で人数を増やしながら行うことができたが、フープを使って投げたり捕ったりする運動やフープを回して走ってキャッチする運動は、人数が増えていくのに時間がかかっていた。子どもたちにとって、フープを扱う体験が少ないので難しかったようだ。しかし、フープを使う運動は、子どもたちにとって人気があり、意欲をもって運動できるので、1人で扱う時間や2人で扱う時間をじっくりとる必要があると思う。

表3-9 実際に行った「人数が増えていく活動」※< >はできたら取り組むように提示したもの。

運動	動き	人数が増える活動	
		運動	段階
体を移動する運動	歩く	ムカデ歩き (アヒル歩きが縦につながったもの)	1段階 1人でしゃがみながら歩く(アヒル歩き)。 2段階 3人(縦に1列になり前の人の肩に手を置く)で歩く。 3段階 6人で歩く。
	はねる	8、4、2、1のリズム (8、4、2、1のリズムに合わせてはねる)	1段階 1人で左右にはねる。 2段階 3人で手をつないで左右にはねる。 (1列になって、円になって) 3段階 6人で手をつないで左右にはねる。 (1列になって、円になって)
	はねる	ケンパのリズム (ケンパケンパケンケンパのリズムに合わせてはねる)	1段階 1人で前にはねる。 2段階 3人(縦に1列になり前の人の肩に手を置く)で前にはねる。 3段階 6人で前にはねる。
用具を操作する運動	用具を運ぶ	ボール運び (お腹と背中でボールをはさんで運ぶ)	1段階 友だちとお腹と背中でボールをはさんで運ぶ。 2段階 3人で2個のボールをはさみ運ぶ。 < 3段階 6人で5個のボールをはさみ運ぶ。 >
	用具を跳ぶ	みんなでジャンプ (大なわとびをする)	1段階 1人で大なわとびをする。 2段階 2人で大なわとびをする。 3段階 4人で大なわとびをする。

	用具を投げ捕る	キャッチフープ (フープを投げたり、捕ったりする)	1段階 その場で上に投げて、両手、片手で捕る。 2段階 2人で、フープを投げたり捕ったりする。 3段階 2人で2個のフープを同時に投げ、捕る。 4段階 3人で3個のフープを同時に投げ、捕る。 <オ 6人で6個のフープを同時に投げ、捕る。>
基本的な動きを組み合わせる運動	用具を跳ぶ、リズムの変化をつけてはねる	大なわケンパ (大なわとびをしながらケンパをする)	1段階 1人で大なわとびをしながらケンパをする。 2段階 2人で大なわとびをしながらケンパをする。 <3段階 4人で大なわとびをしながらケンパをする。>
	走る、用具を回す捕る	フープ回して走ってキャッチ (床の上でフープを回して、隣の人が回したフープを走ってキャッチする)	1段階 その場でフープを回して、キャッチする。 2段階 3人でフープを回して走ってキャッチする。 <3段階 6人でフープを回して走ってキャッチする。>
	用具を跳ぶ、用具を運ぶ	大なわボール運び (ボールを手と手ではさみながら、なわを跳ぶ)	1段階 相手の片手と自分の片手でボールを押さえながら、なわを跳ぶ。 2段階 3人で大なわボール運びをする。 <3段階 4人で大なわボール運びをする。>
	走る用具を捕る	バウンドさせて走ってボールキャッチ (ボールをバウンドさせて、相手のバウンドさせたボールを走ってキャッチする)	1段階 1人で、バウンドさせたボールを落さないようにキャッチする。 2段階 3人でバウンドさせて走ってボールキャッチする。 <3段階 6人でバウンドさせて走ってボールキャッチする。>

(2) グループについて

ア 単元を通して同一メンバーのグループ

今回、単元を通して同一メンバーのグループで学習を行ったので、声をかけやすくなったり、グループで協力して取り組んだりすることができたと考える。また、7、8時間目の「動きを選び、工夫しながら運動する時間」では、これまでの同一メンバーで取り組んできたからこそ、**表3-10**にあるような理由で、動きを選ぶことができたのではないかと考える。

表3-10 子どもたちが「動きを選び、工夫しながら運動する時間」の中で行う運動を選んだ理由

	1班	2班	3班	4班	5班	6班
7時間目	8、4、2、1のリズム	ムカデ歩き	ムカデ歩き	ケンパのリズム	8、4、2、1のリズム	ムカデ歩き
	前、取り組んだ時、できなかったから選んだ。	みんなで協力してできるから選んだ。	自分でコースとか作れるから選んだ。	前によくできていたから選んだ。	前、取り組んだ時、難しかったから選んだ。	前、取り組んだ時、難しかったから選んだ。

8 時 間 目	フープ回して走ってキャッチ	みんなでジャンプ	フープ回して走ってキャッチ	みんなでジャンプ	フープ回して走ってキャッチ	みんなでジャンプ
	最後だから、よくできた動きを選んだ。	できない人がいて、できるようになるように選んだ。	フープだけ6人で取り組んだことがなかったから選んだ。	前、取り組んだ時、できなかったから選んだ。	前（7時間目）に取り組んだものより簡単なものを選んだ。	跳べる人も、跳べない人も、みんなができるように選んだ。

グループ編成については、人間関係を中心に決めたので、子どもたちは励まし合いながら活動していた。動きができずにやる気がなくなってしまうような子どもがいると、声をかけ、もう一度取り組むような励ましをしていた。担任の先生の話によれば、授業が進んでいく中で、学校生活の中でも子どもたちのかかわり合いが多くなってきているということだった。技能的な面で特に配慮はしなかったが、問題はなかったと考える。しかし、グループの中での技能差があるので、活動の中で、もっと高い段階に進みたいと考えていた子どもがいたかもしれないと考える。

(3) 単元について

ア 15分の活動

今回、15分を1つのまとまりとして活動してきたが、結果として表3-11にあるような時間がかかっている。この時間は、運動の説明を始めてから、集合して運動の振り返りをするまでの時間である。事前に説明のポイントをまとめておいたが、説明に時間がかかったり、運動がうまくできず集合して確認したりした時間もあつた。15分で行うには、実際に何人かを動きの見本とし、子どもたちに動いてもらいながら説明をするとその後の運動が順調にいくと感じた。また、ポイントを1～2つに絞り伝えること、グループに配るめあての用紙に運動の順番を書いておくことが有効であった。

15分で1つの運動に取り組むことによって、1時間の中で、2つの動きを学習することができる。今回の単元の中では、全部で10の動きを学習することができた。また、1つの運動を15分で構成しているので、15分の活動を入れ替えることで、学校やクラスの実態に合わせた単元構成をすることができる。また、15分の活動を有効にするためには、運動の内容を、子どもたちができることからスタートし、できそうなこと、少し難しそうなことの3つの段階を準備しておくことと充実した取組になると考える。

表3-11 1つの活動にかかった実際の時間

	運動	活動時間	運動	活動時間
2時間目	ムカデ歩き	19分10秒	ボール運び	15分6秒
3時間目	8、4、2、1のリズム	16分20秒	みんなでジャンプ	14分40秒
4時間目	ケンパのリズム	18分50秒	キャッチフープ	13分35秒
5時間目	大なわケンパ	19分30秒	フープ回して走ってキャッチ	17分50秒
6時間目	大なわボール運び	18分46秒	バウンドさせて走ってキャッチ	14分24秒
2～6時間目までの1つの運動の平均時間				16分49秒
7時間目	これまで行った運動の中から選んで行う			34分12秒
8時間目				37分29秒

イ 単元の内容

今回学習内容とした「体を移動する運動」、「用具を操作する運動」、「基本的な動きを組み合わせる運動」では、子どもたちは運動に一生懸命に取り組んでいた。特に、子どもたちは「用具を操作する運動」が楽しかったようで、学習カードにたくさんの感想が書かれていた。また、「基本的な動きを組み合わせる運動」は、子どもたちにとって、少し、難しい運動になってしまったことがあった。

ウ 「動きを選び、工夫しながら運動する時間」

7、8時間目に「動きを選び、工夫しながら運動する時間」を入れた。この時間の運動については、これまで行った運動の中から、意図的に3つ用意し、子どもたちが選ぶようにした。**表3-12**は用意した運動とその理由である。

表3-12 7時間目、8時間目に用意した運動と理由

	運動	用意した理由
7時間目	ムカデ歩き	2時間目に教師主導で行ったため、子どもたちに相談しながら取り組む機会を増やしたかったため。
	8、4、2、1のリズム	止まる動きの指導が不十分だったので、そこにポイントを絞り取り組みたかったため。
	ケンパのリズム	ケンパだけでなく、「パーケンパーケンパーパーケン」にあるようなパーパーのはね方も学習してほしかったため。
8時間目	ボール運び	2時間目に教師主導で行ったため、子どもたちに相談しながら取り組む機会を増やしたかったため。
	フープ回して走ってキャッチ	フープを操作することに慣れ、最高人数の6人に取り組んでほしかったため。
	みんなでジャンプ	4人での最高回数に向けて取り組んでほしかったため。

7、8時間目（単元の最後）に「動きを選び、工夫しながら運動する時間」を設定することによって、これまで行った運動の中から、もう少し子どもたちに学習させたい運動に取り組ませることができる。もちろんこの時間は、工夫することが中心となるので、思考・判断の要素が多くあるのだが、動きの質の面からも、子どもたちが以前に同じ運動を行った時の反省を生かして指導することができるので、子どもたちの動きはよりよくなっていると思われる。また7、8時間目の最後に、工夫した運動の発表を行ったが、自分たちが工夫して運動した様子を見てほしいと頑張って取り組んでいた。子どもたちの感想の中にも「6人のグループで発表したことがとてもよかったです」と書かれていた。単元のまとめとして有効な活動であった。

また、工夫しながら運動することについては、あらかじめ意図的に教師が工夫を考えやすいように例（**表3-13**）を用意し、その中から工夫する方法を選べるようにした。

表3-13 「動きを選び、工夫しながら運動する時間」に提示した例

	運動	子どもが行う工夫
7 時 間 目	ムカデ歩き	コーンを置き、コースを作る。コーンの置き方を変えることで、曲がったり、回ったりするコースを作る。
	8、4、2、1の リズム	はねる方向を考え、グループ全員でとぶ。(方向のパターンを作っておき、子どもが選ぶ)
	ケンパのリズム	ケンパケンパケンケンパとパーケンパーケンパーパーケンのどちらかを選ぶ。
8 時 間 目	ボール運び	コーンを置き、コースをつくる。コーンの置き方を変えることで、曲がったり、回ったりするコースを作る。
	フープ回して走 ってキャッチ	6人でできるようになるためにはどうしたらよいか考えながら取り組む。(回した後どの方向に走ったらよいかなど)
	みんなでジャン プ	4人で跳ぶためにはどうしたらよいか考えながら取り組む。(2列になる。つめるなど)

子どもたちは、この中から選び、表3-14のような工夫をしていた。運動自体は、教師が用意したものの中から子どもたちがグループの友だちと相談しながら選んで行うというのが中心であった。その中で、これまでの学習を生かしながら6人の動きが揃うような声かけや回数がたくさんできることを目指して取り組んでいた。子どもたちが考えた工夫も出てきていて、動きの変化の時の「8、4、2、1」の声かけを「ハイ」という合図にかえて行っている班や体育館のラインを使い、まっすぐ進むようにしているグループもあった。

表3-14 子どもたちが実際に行った工夫

	運動	実際に子どもが行った工夫
7 時 間 目	ムカデ歩き (3グループ選択)	8の字のコース。コーンを4か所に置き、1周するコース。置いたコーンを回って戻ってくるコース。足を合わせることを意識した声かけ。
	8、4、2、1のリズム (2グループ選択)	前後にはねる。動きが変わるときに「ハイ」という声かけ。壁をさわる。
	ケンパのリズム (2グループ選択)	ケンパケンパケンケンパとパーケンパーケンパーパーケンの二つに挑戦。まっすぐ進むように体育館のラインを利用。
8 時 間 目	ボール運び	選んだグループはなかった。
	フープ回して走 ってキャッチ (3グループ選択)	回した後、左に走る。準備ができたか確認する声。スタートを合わせる声の大きさ。
	みんなでジャン プ (3グループ選択)	みんなで、校舎のある方向を見る。2人ずつ回している方向を見る。並び方を変えて行う。

(4) 授業マネジメント

今回の授業では、多様な動きをつくる運動を1時間の間に2つ行うために1つの運動にかける時間は15分が目安であった。担任の先生の日頃の指導もあって、子どもたちは集合や話を聞く態度などの学習するための規律ができていたので、集合の合図、並び方の指導などの時間は短くすんだ。取り組んだ工夫は表3-15である。エネルギーチェックは、学習の振り返りに使うことで活動の様子をすぐに知ることができた。また、太鼓をたたいて集合するようにしたが、途中から1度たたいたらその場に座る、2度たたいたら集合という使い分けをすることで、効率のよい授業を行うことができた。

表3-15 授業で行った運動する時間を確保するための工夫

	工夫
出欠の確認	最初に集まった時に、班で休んでいる子どもの氏名を教師に報告する。
集合の合図	教師が太鼓をたたいたら集合する。
集合場所	集合する時は、教師の正面に3班が来るように並ぶ。
活動場所	単元を通して、班の活動する場所を決める。
健康観察	エネルギーチェック（立てた親指の向きで、その日の状態を表す）を行うことで短い時間で子どもの状態を知る。

子どもたちには、「仲間の失敗は笑わない」「励まし合う」ということを単元を通して意識してほしいと考え、めあての中に「思いやり」という言葉を入れて、ホワイトボードに掲示して学習に取り組んだ。そのため、「キャッチフープ」や「バウンドさせて走ってボールキャッチ」では、相手が捕りやすいようにフープを投げたり、ボールをバウンドさせたりという意識がさらに高くなっていったと思う。「バウンドさせて走ってボールキャッチ」の時に上手にできていたグループに気を付けていたことを聞くと「相手が捕りやすいようにバウンドさせた」と発表していた。

また、グループみんなが成功したときには、みんなで喜ぶ姿も見られた。また、学習カードに書かれた友だちへの声かけは、「せえの」「1、2、1、2」「ケンパケンパ」などタイミングを合わせる声かけが多く、「フープをここでキャッチしよう」「ボールを真下に落して」など動きができるようになるための声かけや「がんばれ」「うまいね」といった肯定的な声かけもあった。

7 授業全体を振り返って

ここまで、今回の検証授業について、分析の視点に沿って振り返ってきたが、ここでは、検証授業全体を振り返っていきたい。

(1) 授業で行った運動について

今回、はじめて体づくり運動に取り組んだが、私にとってすべてが新しい取組だった。特に学習させた運動については、はじめて行うものがほとんどであり、子どもたちがどの程度取り組めるのか実態がつかめないことが多かった。そのため、授業の中では、子どもたちの様子を見ながら進めたが、反省することもあった。参考として大井小学校の3年1組の子どもの様子を表にした(表3-16)。

表3-16 子どもたちが学習した動きと子どもたちの運動の様子・授業を行った感想

	運動（動き）	子どもたちの運動の様子・授業を行った感想
体を移動する動き	ムカデ歩き （歩く動き）	1人で行うアヒル歩きは、ただ歩いた時より「だるまさんが転んだ」のような遊びの要素を入れた時の方が子どもたちは意欲的に取り組んでいた。なかなか生活の中になかった動きなので、長い時間では疲れてしまう子が多かった。
	8、4、2、1のリズム （はねる動き）	8や4、2、1で次への動きの準備ができない子が多かったため、次への動きのためにきちんと止まることを意識して行ったほうが上手にできるように感じた。
	ケンパのリズム （はねる動き）	1人での動きは、ケンステップを目安にケンパのリズムできていた。人数が増えていくと、速いスピードに合わせるが大変な子もいたが、何回も取り組むうちにできるようになっていった。
用具を操作する運動	ボール運び （用具を運ぶ動き）	同じ方向を向き、前の人の背中と後ろの人のお腹ではさんでボールを運ぶという運動であったが、6人では難しかった。使ったボールはドッジボールだったが、数があれば、ソフトバレーボールなど少し大き目のボールの方がよいのではないかと感じた。
	みんなでジャンプ （用具を跳ぶ動き）	跳ぶ動きに目が行きがちだが、縄を回すという要素も大切だと感じた。跳ぶポイントだけでなく、回すポイントも考えて授業を行う必要がある。
	キャッチフープ （用具を投げる、捕る動き）	フープは、子どもたちにとって人気の用具であった。短い距離から投げるようしたが、もっと近くから手渡しするくらいから始めてもよいのではないかと感じた。
基本的な動きを組み合わせる運動	大なわケンパ （大なわを跳びながらケンパをする動き）	大なわを跳びながらのケンパは、子どもたちにとって難しかったと思う。片足で着地することが難しく、ついた後に両足になってしまうこともあった。その点については、「それでもよい」ということで取り組んだ。
	フープ回して走ってキャッチ （フープを回して、隣の人 の回したフープを走って いきキャッチする動き）	フープを使っただけの運動は2回目だが、投げることよりは、取り組みやすかったようである。回してからの移動の時に、進む方向を決めてしまったが、子どもたちが活動しながら左右、どちらに走った方がよいのか考えさせてもよいと感じた。
	大なわボール運び （ボールを運びながら、小波を跳ぶ動き）	大波では、なかなか難しいと予想をしたので、ボールを相手の片手と自分の片手で押えて運びながら小波を跳びこえるという動きを行った。人数を増やしていただくだけでなく、競争したり、コースを考えたりと活動の広がりがあると感じた。
バウンドさせて走ってボールキャッチ （移動しながら、ボールを捕る動き）	走る前にバウンドさせることが上手にできない子もいた。思い切り投げるとなかなかうまくいかないことを確認したが、子どもたちは思い切り投げたい子が多く、思い切り投げたいのだと感じた。バウンドさせる力加減が、成功へのポイントのようであった。	

(2) 体ほぐしの運動について

今回の体づくり運動では、体ほぐしの運動を1時間目とその後の授業のはじめの5分の時間に配置した。1時間目の授業の中でも、単元を通して、「8、4、2、1というリズムに合わせて肩などをたたく」という運動から「風船バレー」、「音楽に合わせて、みんなとハイタッチする」という運動へ変化させていった。これは、リズムに合わせてその場やかかわり合う、風船という用具をみんなで落さないという目標をもつことで動きが生まれ、新たなかかわりができ、最後は音楽に合わせて自分からかかわり合うという流れをつくりたいと考えたからである。

子どもたちは、これらの運動の中でも「風船バレー」が楽しかったようだ。実際に子どもたちの1時間目の学習カードには、30名の子どもたちが、風船バレーが楽しかったという感想を書いている。**表3-17**は子どもたちの感想の一部である。「～さんナイス」「はらはらした」「ポヨン」「友だちとタッチしたとき、気持ちよかった」という感想から、子どもたちは体を動かす楽しさや心地よさを味わったのではないかと考える。

表3-17 1時間目の子どもたちの感想（一部）

ふうせんで遊ぶのが、みんなで～さんナイスといったのが楽しかったです。
ふうせんバレーをしたとき、楽しかった。はらはらして楽しかったです。
ふうせんをたたくとき、ポヨンとなっておもしろかった。
ふうせんが楽しかったです。さいごに友だちとタッチしたとき、気持ちよかったです。

(3) 授業の振り返りについて

今回の研究では、形成的授業評価を取り入れることで、子どもたちの様子を知り、授業を振り返る資料としてきた。

授業後、形成的授業評価から、5段階評価が3の時や評価が下がった時には、原因が何かを考え、次の授業を改善した。また、5段階の評価が上がった時にも原因を考え、引き続き続けることができるようにした。

これまで、授業中の子どもたちの様子や個人の学習カードから、授業の様子を振り返ることはあったが、形成的授業評価を取り入れることで客観的に自分の授業を振り返るよい機会となった。

第4章 研究のまとめ

1 研究の成果と課題

本研究では、体づくり運動（多様な動きをつくる運動）の授業における挑戦的な運動課題へのグループでの取組など、授業実践をもとに授業づくりに役立つ提案を行うことを目的に研究を進めてきた。

その結果、次のようにまとめた。

- グループで取り組む人数が増えていく活動は、挑戦的な運動課題となり得る。
- 人間関係を配慮したグループを構成し、単元を通して同一メンバーで取り組むことは、協力態勢・課題の共通理解など学びを深めるのに有効である。
- 運動課題の達成が、楽しさに結び付く。
- 1つの運動課題を15分で取り組ませることで、45分の授業で2種類の運動課題への取組を可能にする他、単元の中で取り組む運動課題の順番を入れ替えることを容易にするといった子どもたちの実態に合わせた単元構成を考える上でのメリットがある。
- 単元の最後に設定する「動きを選び、工夫しながら運動する時間」の中で、総復習となる発表に向けた活動を行うことは、それまでの授業の課題を踏まえた指導ができるとともに、単元のまとめとなる。

以上のことを踏まえ、体づくり運動（多様な動きをつくる運動）の授業において、「挑戦的な運動課題に取り組む」、「単元を通して同一のグループ」、「15分を目安に考える運動課題」、「単元のまとめとなる発表」を適宜取り入れていくことを提案したい。

また、課題としては、次のようなことがあげられる。

- ・ 7、8時間目には「動きを選び、工夫しながら運動する時間」として、これまで行った運動の中から、子どもたちが取り組みたい運動を選んで学習したが、多様な工夫が出てこなかった。2～6時間目ですでに学習している運動だったので、すぐに最高的人数に達してしまい、そのままの人数で活動が続いた。人数以外にも子どもたちが目標（回数、距離、速さなど）を決めて取り組むことができれば、多様な工夫が出てきたのではないかと考える。そのためには、教師が学習のはじめに、工夫して取り組むことができるような目標の設定をさせる必要がある。
- ・ 15分の時間の中で、人数が3段階に増える活動を入れたので、各段階の運動に十分に時間をかけることができなかつたり、時間が15分を超えてしまつたりすることもあった。15分を目安に1つの運動を考える時には、2段階までの活動にすると時間を気にすることなく、動きをきちんと確認しながら活動できるのではないかと考える。

2 今後の展望

今回、新しい学習指導要領で1年生から指導することになった体づくり運動について、単元計画を作成し研究を行った。今後の展望として次の3つあげたい。

1つ目は、運動を楽しく行う中で動きの習得をすることが重要視されているので、楽しみながら取り組める手立てを考えていくことが大切であると考え。私は、その手立ての1つとして、人数が増える活動を考えたが、その他にも回数、速度、距離など様々な課題があると考えられる。子どもたちの実態や取り入れる動きなども考えながら、楽しみながら取り組める手立てを考えていく必要があると考え。

2つ目は、たくさんの基本的な動きがある中、「どの動きを扱うか」ということが課題になってくると考える。文部科学省発行「多様な動きをつくる運動（遊び）」のパンフレットを参考にしたり、体の基本的な動きができるようになる運動について多くの教員と情報を交換したりし

ながら子どもたちの実態に合った動きを取り入れることが必要ではないかと考える。今回行った動きについて、子どもたちの感想から分かったことは、子どもたちは、用具を操作する運動を好んで行っていたということである。また、その中でもフープを使った動きは3年生には少し難しいように感じられたが、子どもたちは夢中になって取り組んでいた。このような様子も今後の授業に参考になるのではないかと考える。

3つ目として、体づくり運動では、「一層の充実が必要であることから、すべての学年において発達の段階に応じた指導内容を取り上げ指導するもの」²⁾となっている。また、文部科学省発行のパンフレットでも、「毎学年すべての運動（遊び）を経験できるように計画を立てることが望ましいといえます」と書かれている。このようなことから、今回の単元では扱わなかった「体のバランスをとる運動」「力試しの運動」に「基本的な動きを組み合わせる運動」を加えた単元（表4-1）を3年生の体づくり運動の後半として作成した。毎学年すべての運動を学習できるようにしながらも、学校の現状や子どもたちの実態に合わせた単元を作成していく必要がある。

表 4-1 体づくり運動 第3学年（後半）

時	1	2	3	4	5	6	7	8	
	体 ほ ぐ し の 運 動								
ねらい	ねらい1 みんなとかかわり合いながら、体を動かす楽しさを味わう	ねらい1 ねらい2 動きを確認しながら運動し、体のバランスをとる動き、力試しの動きができる。	多様な動きをつくる運動		ねらい1 ねらい3 基本的な動きを組み合わせた動きができる	ねらい1 ねらい4 動きを選び、工夫しながら運動する			
5	1 オリエンテーション	1 集合・挨拶・健康観察（エナジーチェック）・準備運動	2 体ほぐしの運動						
20	2 本時のめあての確認 ・ 学習時の約束の確認 ・ 本時のめあての確認	3 本時のめあての確認	体のバランスをとる運動		基本的な動きを組み合わせる運動		4 これまでに行った「体のバランスをとる動き」「力試しの運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」の中から選んで行う。		
30	3 体ほぐしの運動 ・ グーチョキごんべさ ・ だるまさんが転んだ（だるまさんが〇〇した）	力 試 し の 運 動		4 バランスを取りながら移動する	5 バランスを取りながら移動する		5 発表		
40	4 学習カードの記入・学習の振り返り	6 学習カードの記入・学習の振り返り							
45	5 挨拶	7 片付け・挨拶							

3 最後に

体を動かす楽しさを味わい、進んで体を動かそうという子どもたちを育てていきたいという思いを新しい学習指導要領で導入される体づくり運動で実践したいと考えて研究主題を設定した。

今回の研究では、8時間という単元ではあったが、10種類の動きを子どもたちは学習することができた。中には、苦手な運動があったと思うが、子どもたちが励まし合って運動していたことが印象的である。また、自分にとって気に入った運動に出会えた子どももいたと思う。

今回、人数が増えていく活動だったからこそ、P42の表3-8の感想にあるように「フープもきれいにまわらせて、みんなでキャッチができて成功できたからこれも心に残りました。」「いつも声をかけて運動できた」「6人のグループで発表したことが楽しかった」など友だちとのかわりを書いたものがあったのだと思う。また、中には「体育は苦手でした。でも、フープを買ってもらいほど好きになりました。風船バレーは外ではできないので家の中でやってみます。」と生活の中に取り入れようとしている子どもがいた。楽しく取り組めたからこそ、自分の生活の中で進んで体を動かしていこうと考えたのだろう。

新しく導入された体づくり運動だが、新しい情報を多くの教員と交換しながら、子どもたちが楽しみながら体の基本的な動きが身に付け、進んで体を動かそうという意欲が高まるような指導ができるよう努力をしていきたい。

〈引用・参考文献〉

- 1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申） 平成20年1月17日 中央教育審議会答申
- 2) 小学校学習指導要領解説体育編 文部科学省 東洋館出版社
- 3) 高橋 健夫 「運動の楽しさと技術学習の関係」『学校体育1998. 2』 日本体育社 1998
- 4) 高橋 健夫・岡出 美則・友添 秀則・岩田 靖 『体育科教育学入門』 大修館書店 2008
- 5) 神奈川県立体育センター 指導研究部 『神奈川県立体育センター研究報告書』 平成17年度
- 6) 矢野 久英 『楽しいプレイへの発展と学習指導—小学校中学年の体育—』 日本体育社 1981
- 7) 宇土 正彦 『体育科教育法入門』 大修館書店 1984
- 8) 高橋 健夫 「座談会—学習指導要領改定の趣旨・内容と学校における体育指導の課題—」 『学体連会報 第46号』
- 9) 岡澤 祥訓 「なぜ、有能感なのか。」『体育科教育1998. 4』 大修館書店 1998
- 10) 小畑 治 「課題設定のポイント」『体育科教育2009. 2』 大修館書店 2009
- 11) 高橋 健夫 『体育の授業を創る』 大修館書店 1994
- 12) 宇土 正彦・高島 稔・永島 惇正・高橋 健夫 『体育科教育法講義』 大修館書店 1992
- 13) 出原 泰明 『体育の授業方法論』 大修館書店 1991
- 14) 高橋 健夫 『体育の授業を観察評価する』 明和出版 2007